

平成 29 年度
自己点検評価報告書

一関工業高等専門学校
点検評価委員会

平成29年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：教務委員会

報告者（役職・氏名） 教務主事・明石尚之

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
委員長	明石尚之	別添 01-1-1, 別添 01-1-2
教務主事補	三浦弘樹	〃
〃	小野孝文	〃
〃	照井教文	〃
〃	片方江	〃
委員	藤原康宣	〃
専攻科長	中山淳	〃
生産工学専攻長	小保方幸次	〃
物質化学工学専攻長	大嶋江利子	〃
学生課長	中山美喜也	会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

(1) 本科教育目標の小項目設定

平成 28 年度末、教務委員会にて小項目の案を作成した。平成 29 年度は学内の意見を取りまとめ、小項目を設定する。

(2) WEB シラバスへの完全移行

平成 29 年度より高専機構の WEB シラバス・システムに移行する準備を整えたが、下記については平成 29 年度内に対応し、平成 30 年度年度当初の時点でモデルコアカリキュラム及び WEB シラバス・システムへの完全移行を実施する。

- ・各科目において、教育目標との紐付け作業を行う。
- ・各科目において、ルーブリックを設定する。

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

(1) 本科教育目標の小項目設定

平成 30 年度より、下記のとおり小項目を設定することを運営委員会で決定した。

<教育目標及び小項目>

- (A) 国際社会の一員として活動できる技術者
 - (A-1) 英語の基礎学力を身につけ、英語による基礎的なコミュニケーションができる。
 - (A-2) 地球的視点にたち、環境問題やエネルギー問題があることを科学的に理解できる。
- (B) 誠実で豊かな人間性と広い視野をもつ技術者
 - (B-1) 誠実で他者への思いやりをもって物事を考えることができる。
 - (B-2) 多様な社会的価値観があることを理解し、多様性に配慮した行動をとることができる。
- (C) 広い分野の基礎知識と優れた創造力・開発力をもつ技術者
 - (C-1) 数学、物理、化学などの工学基礎を身に付ける。
 - (C-2) 異なる分野にまたがる知識・技術と社会ニーズを結び付けて適切に問題を解決することができ、新たなアイデアを創造できる。
- (D) 継続的に努力する姿勢とさかんな研究心をもつ技術者
 - (D-1) 得意とする専門分野の知識と能力を深め、それを駆使して課題を解決することができる。
 - (D-2) データ解析能力・論文作成能力を習得し、日常の問題に関心を持ち、自主的・継続的に学習できる。
- (E) 協調性と積極性をもち信頼される技術者
 - (E-1) 日本語による論理的な記述、口頭発表、討議が行え、効果的なコミュニケーションができる。
 - (E-2) 仕事を計画的に進め、期限内に終わることができ、チームワークで作業が行え、リーダーシップを発揮できる。
- (F) 技術と社会や自然との係わりを理解し社会的責任を自覚できる技術者
 - (F-1) 技術と社会や自然などとの係わり合いを理解できる。
 - (F-2) 技術者としての社会的責任を自覚できる。

(2) WEB シラバスへの完全移行

平成 30 年度年度よりモデルコアカリキュラム及び WEB シラバス・システムへの完全移行を実施するために、以下を実施した。

- ・各科目において、教育目標との紐付け作業を行った。
- ・各科目において、ループリックを設定した。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

【進言 1】

アクティブ・ラーニングを取り入れた授業への取り組み 3 件について、見学者数・出席者が少なく

全校的な取り組みになっていない印象を受ける。翌年度以降の導入推進や授業改善について検討をお願いしたい。

【対応 1】

アクティブ・ラーニングを取り入れた授業のみ単独で実施した6月の授業参観の参加者数は7名と非常に少なく、今後も改善が必要である。

【進言 2】

別紙3：特別支援教育支援室（未規則化）とあるが、今後規則化が計画されているのかを明確にした方がよいと考える。

【対応 2】

特別支援教育支援室（未規則化）は教務委員会と保健管理センター運営委員会にまたがっているが、検討の結果、保健管理センター運営委員会規則に取り込む方向で規則整備を進めることとなった。

【進言 3】

アクティブ・ラーニングを取り入れた授業は、学生の学力修得の新たな手法であり、能動的な知識向上に期待したい。

【対応 3】

前述のように参加者が少ないのが課題である。

【進言 4】

1年生の校外オリエンテーションの早期実施は、学生同士が身近な存在となり学校生活上の不安を解消できる行事であり評価できる。

【対応 4】

近年、配慮を必要とする新生が急増していることから、平成30年度よりオリエンテーションを全て校内で実施することとなった。

【進言 5】

編入学生に対する入学後の学習支援体制について検討願いたい。

【対応 5】

平成29年度は検討することができなかった。平成30年度に検討を行いたい。

【進言 6】

FD研修会実施による教育改善の効果を評価できる仕組みを構築してもらいたい。

【対応 6】

平成29年度最後の第3回FD研修会終了後、アンケート調査を行い、研修会の効果について報告してもらった。平成30年度初めに報告したい。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

規則及び内規の改正を行い、平成30年度より以下の事項を実施することとした。

- ・第1～5学年の全学年において、前年に合格と判定された単位を有効とする。
- ・履修・再履修手続きの簡素化。
- ・校外実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに関する手続きの整備。
- ・学業に関する表彰の整理に伴う、「学業奨励賞」の廃止。
- ・年度末に限っていた第3学年修了特例認定の、第3学年原級留置生への適用。
- ・疾病等の休学により年度をまたがって在学する学生への進級認定の配慮。
- ・停学に伴う欠席を出席停止へ変更。

2.5 来年度の年度計画

- ・未来創造工学科における第3学年以上の共通科目・横断科目の具体的な内容審議。
- ・平成31年度移行予定の高専機構統一教務システム「学生情報システム」への準備作業。

平成 29 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：教務委員会(専攻科関係)

報告者(役職・氏名) 専攻科長・中山 淳

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務 ^{※2}
委員	中山 淳 (専攻科長)	
〃	小保方 幸次 (生産工学専攻長)	教務委員会国際コミュニケーション能力育成部会 点検評価委員会評価対応部会
〃	大嶋 江利子 (物質化学工学専攻長)	教務委員会国際コミュニケーション能力育成部会 点検評価委員会評価対応部会 進路指導室
- ※1	若嶋 振一郎 (生産工学副専攻長)	
- ※1	小野 孝文 (生産工学副専攻長)	特別研究発表会実施および特別研究論文集製本等に係る業務
委員	中山 美喜也 (学生課長)	

※1：生産工学副専攻長は教務委員会構成員ではない

※2：専攻長・副専攻長としての担当業務のみ

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

(1) 専攻科の授業科目の履修等に関する規則の改正

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

(1) 専攻科の授業科目の履修等に関する規則の改正

従来の規則では、欠課時数に関する記載がない等のいくつかの問題点が残されていた。今回の規則改正により、それらの問題点が改善された。

(2) 教務委員会(専攻科関係)の活動全体について

学生向けガイダンス、教員向け説明会、特別研究発表会等を計画どおり実施した。TOEIC-IP テストについては、専攻科生全員受験を目標としたが、79.7% (59名中47名受験) の受験であった。ただし、専攻科第1学年だけで見た場合には、90% (32名中29名受験) を超える学生が受験しており、その点においては評価できる。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

平成28年度年間活動報告書について、改善の進言はなかった。

2.4 前年度からの改善(変更)項目(前述の改善の進言への対応以外)

以下の規則および要項の改正を行った。

専攻科インターンシップに関する要項

2.5 来年度の年度計画

(1)教育課程に係る検討

平成29年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：教務委員会 実践教育部会

報告者（役職・氏名） 教務主事補・照井 教文

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
部会長	照井 教文	統括（教務主事補）
	郷 富夫	（「実践創造技術」「地域創造学」担当）
	貝原 巳樹雄	（「地域創造学」担当、COC実行委員会）
	滝渡 幸治	（「実践工学」担当）

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

(1) 実践教育の推進

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

「実践教育の推進」について、今後の状況に合わせた各科目の実施方法および内容について検討することができた。そのうち「地域創造学」および「実践工学」については実際に検討内容を次年度の内容に反映することができた。

モデルコアカリキュラムへの対応については、十分に検討することができなかった。来年度も継続して対応を検討していきたい。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

【提言】部会開催回数も多く、実践教育(COC、地域創造学)についてしっかりと議論が行われていると評価する。

【対応】今年度はメール会議が多かった。来年度は必要に応じて通常の会議を実施していきたい。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

関係する授業科目ごとに会議を実施した。

2.5 来年度の年度計画

(1) 将来的な実践教育系科目の実施体制および実施内容の検討

(2) 実践教育系科目におけるモデルコアカリキュラムへの対応の検討

平成29年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：教務委員会 知財教育部会

報告者（役職・氏名） 部会長・照井 教文

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
部会長	照井 教文	統括（教務主事補）
	貝原 巳樹雄	（「知的財産」担当、COC実行委員会）
	平林 一隆	（COC実行委員会）
	津田 大樹	
	八戸 俊貴	（COC実行委員会）
	谷川 享行	

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

(1) 知的財産に関する教育の推進

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

「知的財産に関する教育の推進」について、これまでと同様の授業内容および講演会を実施することができた。さらにパテントコンテストにおいて、学生および本校が受賞するという大きな成果を示すことができた（5. その他 参照）。このことから、これまでの本校の知財教育が十分に効果的なものであったと考える。

一方で、従来より指摘されているの「本科および専攻科の知財教育の点検」は十分に達成することはできなかった。さらに来年度はモデルコアカリキュラムへの対応も必要となる。これらの点については、来年度も継続して対応を検討していきたい。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

【提言】 知財部会開催数が少ないが、本科および専攻科の知財教育の点検と議論が必要と考える。

【対応】 今年度も十分な回数の部会を開催できなかったことは大いに反省しなければならない。来年度は計画的に部会を開催し、本科および専攻科の知財教育の点検と議論を実施する。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

なし

2.5 来年度の年度計画

- (1) 知的財産教育に関する教育内容の点検および推進
- (2) 知的財産教育に関するモデルコアカリキュラムへの対応の検討

平成 30 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：教務委員会 ICT 活用教育部会

報告者（役職・氏名） 准教授・片方 江

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
部会長	片方 江	統括
委員	千田 栄幸	
〃	小保方幸次	
〃	管 隆寿	※平成 29 年 9 月 30 日まで

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

(1) ICT を活用した教育の推進

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

(1) ICT を活用した教育の推進

今後の ICT を活用した教育の展開について協議した。

【自己点検・評価】

ICT を活用した教育を実施している教員が固定化している状況で、どのように ICT 活用教育を広げていくかが課題である。また、高専機構本部が e ラーニングシステムとして Blackboard を推進しているのに対し、本校で主に使われている Moodle を今後どのように運用していくかが喫緊の課題となっている。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

なし

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

なし

2.5 来年度の年度計画

(1) ICT を活用した教育の推進

平成 29 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：教務委員会国際コミュニケーション能力育成部会

報告者（役職・氏名） 准教授・三浦 弘樹

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
部会長	三浦 弘樹	統括
委員	二本柳譲治	(英語主任)
〃	岡本 健	(副国際交流室長)
〃	千葉 圭	(副国際交流室長)
〃	小保方幸次	(生産工学専攻長)
〃	大嶋江利子	(物質化学工学専攻長)

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 国際コミュニケーション能力の育成に係る検討

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) 国際コミュニケーション能力の育成に係る検討

英語科におけるこれまでの取り組みについて取りまとめた他、英語科と専門教員で国際コミュニケーション能力の育成の方策について意見交換を行った。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

【進言】

活動が活発ではないが、英語科と専門教員との意見交換の場としては機能していると思う。部会の実施時期を早め、部会長より教務委員会に英語教育に関する一般教科と専門教科の認識について報告する形となるよう活動の改善を期待したい。

【対応】

今年度も英語科と専門教員で、これまでの取り組みについて意見交換を行った。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

なし

2.5 来年度の年度計画

- (1) 国際コミュニケーション能力の育成に係る検討

平成29年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：学生委員会

報告者（役職・氏名） 学生主事・白井仁人

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
学生主事	白井仁人	いじめ防止委員会、学生指導全般、企画調整、高専祭指導（全般補助）、対外的行事全般（学外委員、外部対応）、市学警連・生徒指導連絡協議会、預り金関係、奨学金・経済支援、部活動顧問調整、文化的行事、東北地区高専体育大会（分散開催）、後援会費調整
学生主事補 （筆頭）	岡本 健	学生主事補佐（一次対応：学生指導関係（課外活動））、いじめ防止委員会、国際交流委員会、部活動指導（高体連・合宿指導他）、技術系コンテスト支援部会、預り金関係、交通安全指導、東北地区高専体育大会（教職員学生割振案）
学生主事補	藤田 実樹	学生主事補佐（一次対応：学生指導関係（クラス・その他））、学生会指導、いじめ防止委員会、広報委員会、学生表彰関係、校内体育大会、屋外清掃、高専祭指導（サブ）、生活指導計画
学生主事補	原 圭祐	学生主事補佐（一次対応：学生メンタル相談関係）、いじめ防止委員会（いじめ調査）、評価対応部会、保健管理センター運営委員会・保健室連携、学生安否確認訓練、IT関係・保健指導、高専祭指導（メイン）
学生委員	佐々木晋五	一関市少年センターの巡回（前期）
学生委員	渡辺 仁史	一関市少年センターの巡回（後期）
学生課長	中山美喜也	学生委員会関係事務
学生支援係長	高橋 寛子	学生委員会議事録

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

(1) 学生会行事

部活動紹介・見学、立会演説会、学生総会、壮行会、大会報告会、学生会リーダー研修会、「朔風」編集発行

(2) 課外活動関係

合宿の調整・指導、課外活動記録、課外活動の安全と指導の手引き改訂、顧問調整、各種大会参加

(3) 技術系支援部会関係

公募準備・選考、部会招集、ロボット作成指導補助

- (4) 学生安否確認訓練
- (5) 実行委員会指導
校内体育大会実行委員会、高専祭実行委員会
- (6) 健康・IT・文化的行事関係
飲酒・喫煙・薬物乱用の防止と指導、性教育に関する啓蒙指導、IT 利用に関する被害防止とマナーの遵守指導、救急救命講習会
- (7) 生活指導全般
挨拶運動・登校指導、校内外巡回指導、交通安全に関する指導、女子学生への生活指導、学生指導の手引
- (8) 問題行動発生時の対応
事情聴取・処分内容の検討など全員で対応
- (9) 外部機関との連携
一関市少年センターの市内巡回への協力、一関市学校警察連絡協議会・生徒指導連絡協議会、岩手県高等学校体育連盟県南支部関係、高文連一関支部、萩荘地区青少年健全育成協議会

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) 学生会行事
部活動紹介・見学：4月7日に実施した。
立会演説会：4月21日に実施した。
学生総会：4月21日に実施した。1月23日に実施予定だった学生総会はインフルエンザ感染予防のため中止とした。
壮行会：6月29日に実施した。
大会報告会：7月6日と9月26日に実施した。
学生会リーダー研修会：12月19日に実施した。
「朔風」編集発行：12月～3月にかけて実施した。
○ 達成度：100%
○ 自己評価内容：問題なく実施することができた。
- (2) 課外活動関係
合宿の調整・指導：夏季休業前及び春季休業前に実施した。
課外活動記録：通年で行った。
課外活動の安全と指導の手引き改訂：3月に実施した。
顧問調整：3月に実施した。
各種大会参加：高体連・東北地区高専体育大会・全校高専体育大会等、通年で実施した。
○ 達成度：100%
○ 自己評価内容：問題なく実施することができた。
- (3) 技術系支援部会関係
公募準備・選考：5、6月に実施した。
応募チーム数：ロボコン2、
プロコン4（競技部門2、課題部門1）
部会招集：6月に実施した。

ロボット作成指導補助：5月～10月にかけて実施した。

○ 達成度：100%

○ 自己評価内容：問題なく実施することができた。

(4) 学生安否確認訓練

学生安否確認訓練：6月に実施した。

○ 達成度：100%

○ 自己評価内容：問題なく実施することができた。

(5) 実行委員会指導

校内体育大会実行委員会：5月11、12日に校内体育大会を実施した。

高専祭実行委員会：11月3～6日に高専祭を実施した。

○ 達成度：80%

○ 自己評価内容：両大会ともに問題なく実施することができた。ただ、高専祭当日に学生の問題が発生したため、学生主事は高専祭指導に十分に関わることができなかった。やむおえぬ事態ではあったが、学生主事補による指導のみとなったため、達成度を80%とした。

(6) 健康・IT・文化的行事関係

飲酒・喫煙・薬物乱用の防止と指導

・健康教室：11月21日実施 対象者：1年生全員

・薬物乱用防止講演会：10月25日実施 対象者：2年生全員

性教育に関する啓蒙指導

・「いのちと性」に関する講演会：10月11日実施 対象者：1年生全員

IT利用に関する被害防止とマナーの遵守指導

・スマホ・ケータイ安全教室：6月28日実施 対象者：1年生全員

・サイバー犯罪被害防止教室：7月12日実施 対象者：2年生全員

・インターネット被害防止教室：7月19日実施 対象者：3年生全員

救急救命講習会

・救急救命講習会の計画立案および実施：7月4日実施

○ 達成度：100%

○ 自己評価内容：問題なく実施することができた。

(7) 生活指導全般

挨拶運動・登校指導：毎月の第1週に専攻科棟脇通用口と正門で挨拶の声かけ

校内外巡回指導：通年で毎週2～3回、昼休み時間と放課後に校内外の巡回指導

交通安全に関する指導

・交通安全教室 1年生全員：5月17日実施

・交通安全教室 2年生全員：5月24日実施

・交通安全教室 3年生全員：5月31日実施

・ステッカー貼付指導・駐輪マナーの徹底：適宜、指導を行った。

・構内自動車無許可乗入れ車への指導：適宜、指導を行った。

女子学生への生活指導

・女子学生対象の集会：4月実施

学生指導の手引

- ・学生指導の手引の改訂：3月実施

○ 達成度：90%

- 自己評価内容：問題なく実施することができた。ただ、学生から教員への挨拶、教員から学生への挨拶をもっと活発化させられるかもしれない。その分を差し引いて、達成度を90%とした。

(8) 問題行動発生時の対応

事情聴取・処分内容の検討など全員で対応： 随時、全員で対応した。

○ 達成度：100%

- 自己評価内容：問題なく実施することができた。

(9) 外部機関との連携

- ・一関市少年センターの市内巡回への協力： 通年で学生委員が参加・協力した。
- ・一関市学校警察連絡協議会・生徒指導連絡協議会： 通年で学生主事が参加した。
- ・岩手県高等学校体育連盟県南支部関係： 課外活動担当の学生主事補が参加した。
- ・高文連一関支部

H28～29年度は一関高専が高文連一関支部事務局であり、学生主事が副理事長を担当した。

- ・萩荘地区青少年健全育成協議会： 通年で学生主事が参加した。

○ 達成度：100%

- 自己評価内容：問題なく実施することができた。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

- (1) 進言：「顧問体制について引き続き改善の取り組みをお願いしたい。(業務改善)」

対応： H28年度に引き続き、H29年度も顧問負担軽減の努力を行っている。H30年度も続ける予定である。H30年度は部活動・同好会の体制を学生会と話し合う予定である。

- (2) 進言：「全校屋外清掃の学生会主体の取り組みについて、掲示や放送等学生たちへの声かけ方法の再確認をお願いしたい。(例：学生会長名で、学生宛の通知にする等)」

対応： 再確認した上、今後もさらに改善を行っていく予定である。

- (3) 進言：「地区ロボコン大会、全日本フォーミュラ等部活動における目覚ましい活動・活躍が見られたことは、高度技術者の育成を促進する活動として高く評価できる。継続した活動となることを願う。」

対応： 高い評価をしていただき非常にありがたいことである。今後も継続して努力していく予定である。

- (4) 進言：「屋外清掃において学生が自主的に活動するようになった点は評価できる。今後も引き続き学生の自主性を引き出してほしい。」

対応： こちらも評価をしていただきありがたいことである。今後も継続して努力していく予定である。

- (5) 進言： 「H28年度にいくつか業務改善を行ったことは評価できる。」
 対応： 業務改善を続けていることを評価していただき、非常にありがたいことである。今後も継続して努力していく予定である。
- (6) 進言： 「上級生も教員から挨拶をすれば返してくれるが、ポケットに手を入れた状態や軽く会釈する程度の学生も見受けられる。呼びかけ時にその点も少し触れてほしい。」
 対応： 挨拶についてはこれまでも始業式や全校集会等で呼びかけており、今後も続ける予定である。ただ、学生からは、学生が教員に挨拶しても教員が挨拶しないことが多々あるとの意見を受けており、実際、朝の登校時や昼休みに見てみると、挨拶をしない教員も多い。今後は学校全体として挨拶が盛んになるよう努力していきたい。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

- (1) 部活動顧問の負担軽減について努力した。具体的には、テニス部の顧問引率を（公式大会以外については）保護者をお願いすることとした。
- (2) 部活動顧問負担軽減についてH30年度に学生会と話し合うこととした。

2.5 来年度の年度計画

- (1) 学生会行事
 部活動紹介・見学、立会演説会、学生総会、壮行会、大会報告会、学生会リーダー研修会、「朔風」編集発行
- (2) 課外活動関係
 合宿の調整・指導、課外活動記録、課外活動の安全と指導の手引き改訂、顧問調整、各種大会参加
- (3) 技術系支援部会関係
 公募準備・選考、部会招集、ロボット作成指導補助
- (4) 学生安否確認訓練
- (5) 実行委員会指導
 校内体育大会実行委員会、高専祭実行委員会
- (6) 健康・IT・文化的行事関係
 飲酒・喫煙・薬物乱用の防止と指導、性教育に関する啓蒙指導、IT利用に関する被害防止とマナーの遵守指導、救急救命講習会
- (7) 生活指導全般
 挨拶運動・登校指導、校内外巡回指導、交通安全に関する指導、女子学生への生活指導、学生指導の手引
- (8) 問題行動発生時の対応
 事情聴取・処分内容の検討など全員で対応
- (9) 部活動顧問負担軽減案の検討
- (10) 外部機関との連携
 一関市少年センターの市内巡回への協力、一関市学校警察連絡協議会・生徒指導連絡協議会、岩手県高等学校体育連盟県南支部関係、高文連一関支部、萩荘地区青少年健全育成協議会

平成29年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：学生委員会管轄 技術系コンテスト支援部会

報告者（役職・氏名） 部会長・岡本 健

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
化学・バイオ系・准教授 学生主事補 (規則 第3条一号委員)	岡本 健	部会長 企画調整・学生指導補助
機械・知能系・教授 (規則 第3条二号委員)	土屋 高志	学生指導補助
電気・電子系教授 (規則 第3条二号委員)	千葉 悦弥	学生指導補助
電気・電子系・准教授 (規則 第3条二号委員)	佐々木晋五※	学生指導補助
化学・バイオ系・准教授 (規則 第3条二号委員)	滝渡 幸治	学生指導補助
人文社会領域・教授 (規則 第3条二号委員)	畠山 喜彦	学生指導補助

※ H29年11月23日まで担当。以降、補充は行わなかった。

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 第1回技術系コンテスト支援部会 4月中～下旬
- (2) 第2回技術系コンテスト支援部会 5月中旬
- (3) 第3回技術系コンテスト支援部会 6月上旬
- (4) コンテスト学校代表チームの支援依頼に応じて、学生指導補助

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) 計画通り、トラブルや遅滞なく、部会・選考会の開催できた。
- (2) 例年より支援依頼回数が少なかった。
- (3) (委員の点検・評価) 前に担当した時(当時、ロボコン部会)は年に3回ほど当番がまわってきたが、今年は0だった。機械技術部が夜遅くまで頑張っていて、顧問教員が毎日、遅くまで残っている印象を受けたので、体調面など大丈夫かなと感じている。可能な範囲で支援部会に当番の依頼をしてもいいかと思った。
- (4) 今年度は、高専ロボコン、プロコンの他に、高専PRコンテストショートムービー、KOSENセキュリティ・コンテスト2017の案内が学生支援に来た。これを学生委員会(支援部会)から掲示板等で学内に案内した。高専連合会主催でないコンテストあつてかつ出場チーム数

が決められているコンテストの扱いは、掲示板等で周知する方針としているが、このようなコンテストの場合、通知から応募締切までの期間が極端に短い場合があり、事実上、学内選考会の開催は困難である。従って、稀なケースではあると思うが、こういった小規模コンテストにおいて選考が必要になった場合は、選考会を行わず、応募希望者間での調整をお願いしたい。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

平成 28 年度の評価結果と改善の進言では、技術系コンテストの支援を十分行っていると評価する、と評価され、改善の進言への対応は必要なく、2.4 の自己改善のみ行った。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

教員の業務負担軽減の観点から、以下の進言を行った。

部会の規定では、主事補 1 名、教員 5 名となっているが、主事補が所属する系または総合科学からの委員 1 名を削減するための規則改正案を部会長から学生委員会に提案した。

学生委員会で検討し、早ければ平成 30 年度から実施。

2.5 来年度の年度計画

- (1) 第 1 回技術系コンテスト支援部会 4 月中～下旬
- (2) 第 2 回技術系コンテスト支援部会 5 月中旬
- (3) 第 3 回技術系コンテスト支援部会 6 月上旬
- (4) コンテスト学校代表チームの支援依頼に応じて、学生指導補助
- (5) 各種コンテストの案内

平成 29 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：寮務委員会

報告者（役職・氏名） 副校長（寮務担当）・松尾 幸二

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
委員長	松尾 幸二 (副校長 (寮務担当))	委員会業務の掌理、宿直、寮生指導、行事参加等
委員	千田 芳樹 (寮務主事補)	各種行事の指導割当、中央委員会・評議会指導(主)、留学生・チューター指導(副)、寮生派遣の交渉・引率(副)、部屋割指導・表作成(副)、「ACCESS plus」編集指導、保健管理センター運営委員会、領域連絡担当、宿直、寮生指導、行事参加等
〃	八戸 俊貴 (寮務主事補)	寮生派遣の交渉・引率(主)、部屋割指導・表作成指導(主)、「寮生活の手引き」編集(主)、指導寮生会指導(副)、入寮選考資料作成(副)、夏季特別在寮風呂当番・掃除当番票作成、点検評価委員会・評価対応部会、広報室、系連絡担当、宿直、寮生指導、行事参加等
〃	佐藤 智治 (寮務主事補)	主事・主事補・委員の宿直・巡回割当、在室調査・朝点呼立会割当、指導寮生会指導(主)、留学生・チューター指導(主)、入寮選考資料作成(主)、中央委員会・評議会指導(副)、「寮生活の手引き」編集(副)、国際交流委員会、系連絡担当、宿直、寮生指導、行事参加等
〃	谷林 慧 (寮務委員)	系連絡担当、宿直、寮生指導、行事参加等
〃	貝原巳樹雄 (寮務委員)	系連絡担当、宿直、寮生指導、行事参加等
〃	中山美喜也 (学生課長)	寮運営費収支報告書、寮生保護者会費収支報告書作成および次年度予算案作成等
学生課	及川 尚 (寮務係長)	会務、教員宿直割振、違反集計等

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 冷房・暖房の温度設定および使用時間帯の徹底
- (2) 女子寮間の門限点呼後の往来の検討
- (3) 静粛自習時間帯の設定変更

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

(1) 冷房・暖房の温度設定および使用時間帯の徹底

今年度から全室エアコン完備となったが、電気使用量に制限がある契約のため、冷房・暖房の温度設定や使用時間帯について十分注意・指導していかなければなかった。4月の開寮日の寮生集会において、口頭ではあるが温度設定等について学生側に協力を依頼した。また、掲示による節電協力も行った。夏場の冷房の使用については特に大きなトラブルもなく夏季休業を迎えることができた。しかし、冬場の暖房については当初より心配されたことではあるが、授業終了（14:20）から部活終了（17:00）前後で、校舎と寄宿舎とで共に暖房を使用することになり電気使用量が増加した。特に1月に入ると高温に設定したり、点けっぱなしで登校したりする者が増えてきた。施設係では、この間デマンド警報がひっきりなしに鳴る状態に陥り、契約電気量限界にあと5キロワットまで迫ったこともあり、寮での設定温度の徹底依頼がなされた。寮内放送により設定温度を守る等、節電に協力するよう呼びかけた。中央委員会へも働きかけ、寮生の節電協力を促すことができた。14:30～17:30の時間帯のエアコンの使用については必ず温度設定を守り、必要なければ使用しないように注意・指導を行った結果、その後は順調な状況が続いている。

(2) 女子寮間の門限点呼後における往來の検討

白萩寮と新南寮1階に分かれている女子寮の門限点呼以降の往來を23時まででは認めることを検討した。しかし、静肅自習時間帯を22時からと再設定することもあり、また北寮舎監室において、この往き來をモニターで確認できるのであるが、宿直教員が22時以降は在室調査に向かうことも考え合わせると往來は22時までとするのが妥当であると判断した。女子寮からも22時までとするよう要望があり、女子寮間の門限点呼後における往來は22時までを限度に認めることとした。

(3) 静肅自習時間帯の設定変更

門限点呼（男子寮では21時30分）後から23時までを静肅自習時間帯と定義し、できるだけ自室で机に向かい学習する時間帯としていたが、男子寮では入浴時間が22時までで、門限点呼から22時まで自室に戻っていないことが非常に多く見られた。また、2年前に娯楽室の使用時間も入浴時間に合わせて22時までとした経緯もあり、これらの現実と整合性を図るために静肅自習時間帯を22時から23時までと変更することとした。宿直教員による在室調査は22時から行われるため、今までと大きく変更される点はない。

(4) 寮務委員会の活動全体について

今年度の他高専への寮生派遣は西日本に目を向け和歌山高専、舞鶴高専、鈴鹿高専などの候補が挙がった。各高専とのやり取りの結果、今年度は和歌山高専への派遣が決まった。しかし、かなりの遠距離であることも考慮し飛行機での移動を検討した。格安の時期に航空券を購入し、保護者の承諾を受けることで実施することとなった。今後は、飛行機での移動でなくとも保護者の承諾を必ず得てから派遣を行うこととした。もう1校は今年度も函館高専と交換寮生の形で行うことができた。さらに、この派遣期間にそれぞれの高専での主要な行

事が行われていたことは幸運であった。また、派遣結果の報告には、これまでの Power Point による報告に加えて報告書の提出も課した。今後の寮生会活動に活かしてもらいたい。

3 年目になる『寮もちつき大会』は中央委員会も慣れてきて、スムーズに、そして衛生的で問題なく行われるようになった。ただ、参加寮生数はなかなか増えてこないことが問題である。寮務委員会では何かの行事と抱き合わせで行えば参加人数も増加するのではという提案もある。

寮生の日課違反（遅刻、無断欠席等）および許可の無申請などが多発した。寮生活の基本が守られていないことは非常に残念である。その結果として、違反点一覧表に日課違反を追加することとした。また、寮内での窃盗は寮生活における共同生活に不安感を抱かせる原因であり、快適な寮生活が送れないため、特定された場合は退寮とすることとしていたが、違反点一覧表に書き加えることとした。さらに、冷蔵庫からの紛失についても、状況によっては寮内窃盗と判断する必要も出てくる場合もあると考える。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

- ・4, 5 年生、専攻科生のみ学生発表や研究引き継ぎのための春季特別在寮期間を設けるべき。
 - …夏季特別在寮の卒業研究関係での利用は少ない。また、春季にも特別在寮期間を設ければ教員の業務負担の増加に繋がることでもあり、さらに警備員を配置すればその経費も必要になることでもある。今後の検討課題としたい。
- ・Web での広報について、継続して検討をお願いしたい。
 - …今年度は担当主事補を決めて検討してきたが、新しいHPの立ち上げは叶わなかった。学生に企画・運営の主たる部分を任せたい旨は、寮生リーダー研修会で中央委員会に検討依頼した。寮務委員会は全体的な統括のみとしたい。
- ・留学生の話聞く会は、国際社会の活動に係る動機付けとして評価できる。
 - …今後も継続していきたい行事であるが、留学生の積極的な講演に比べて、聴講する寮生が低学年ということもあり、やや質疑応答が内容的に幼いところがある。留学を志した経緯とかを質問してもらいたい。
- ・全室エアコンとなったことに伴う節電の取組について 29 年度の活動報告にて報告願いたい。
 - …2. 2 (1)において、報告した。
- ・業務改善が常に行われることは評価する。
 - …点検評価委員会・評価対応部会への寮務主事補の選出が廃止された。教育体制整備により教員数の減少が必須であるため、教職員の業務の軽減が今後不可欠となってきている。業務の取捨選択を急ぐ必要があると考える。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

- ・静粛自習時間帯を門限点呼（21:30）であったものを 22:00～23:00 に変更した。
- ・静粛自習時間帯の変更に伴いゲームについても 22:00 以降は（翌朝まで）禁止と変更した。
- ・日課違反（無断欠課）は違反点 3 点（30 年度からは 2 点）とした。
- ・原級留置の場合は次年度の前期における入寮を許可していなかったが、空室状況によっては次年度全科目履修を条件に許可することとした。本学生寮は教育寮であり、日課の遵守を基本としていることがその理由である。

- ・冷凍食品の取扱を変更した。レンジ等での加熱のみで食べられる調理済みの冷凍食品については、その都度食べきる程度のものに限り許可した。長期間放置は禁止とする。

2.5 来年度の年度計画

- (1) 寮内ネットワーク環境の整備
- (2) 寮ホームページの整備および充実
- (3) エアコンの設定温度および使用時間の徹底（継続）
- (4) 日課の徹底

平成 29 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：施設設備委員会

報告者（施設設備委員会委員長・千葉悦弥）

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏 名	担当業務
委員長	千葉 悦弥 校長補佐（総務担当）	
委員	明石 尚之 副校長（教務担当）	
〃	白井 仁人 副校長（学生担当）	
〃	松尾 幸二 副校長（寮務担当）	
〃	戸谷 一英 副校長（研究・地域連携）	
〃	中山 淳 校長補佐（専攻科担当）	
〃	二本柳讓治 メディアセンター長	
〃	平林 一隆 保健管理センター長	
〃	高野 淳司 一般教科（人文社会系）	体育施設
〃	後藤 勉 事務部長	
総務課		会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1)概算要求（案）、営繕事業（案）の作成と検討
- (2)キャンパスマスタープラン（案）の作成と検討
- (3)設備整備マスタープラン（案）の作成と検討
- (4)施設設備に関する計画案、設置案についての検討

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1)概算要求（案）、営繕事業（案）を作成した。
- (2)キャンパスマスタープラン（案）を作成した。
- (3)設備整備マスタープラン（案）を作成した。申請書式や順位決定の項目が変更となり、新たに順位決定方法を検討する必要があるが生じた。
- (4)追加予算によるバリアフリー対応の施設改修工事を実施した。
学科改組に伴う教員室等の配置案の方針決定は継続して審議する必要がある。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

- ・高額設備の導入および設備維持費が高い設備の方針についての検討について
新規設備の要求には設備維持費についての審議検討することとした。また、設備使用対象となる学生数についても教育優先で審議することにした。

- ・学科改組に伴う教員室の再配置計画について（平成 27 年度進言から継続）
未来創造工学科完成年度に向け、教員室および研究室、専攻科研究室の配置計画の方針について検討を継続する。
- ・メディアセンター（図書館）改修後の、改修前の各室の移転場所の確保について継続して審議する。また障がいを持つ学生の入学に伴い、保健室の移転も今後マスタープランに盛り込み案の見直しも検討していく。
- ・部屋や施設のより効果的な活用の検討を引き続き継続する。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

- ・校門前の看板の下部（50 周年記念）を非表示とした。（看板の表裏を交換）
- ・校内案内図の更新（表示変更等）

2.5 来年度の年度計画

- (1)概算要求（案）、営繕事業（案）の作成と検討
- (2)キャンパスマスタープラン（案）の作成と検討
障がいを持つ学生のための施設設備の追加もマスタープランに追加する方向で検討を行う。
- (3)設備整備マスタープラン（案）の作成と検討
新規・更新設備の学内順位決定の評価項目の見直しと、設備維持費に関する検討を行う。
- (4)施設設備に関する計画案、設置案についての検討
施設利用状況調査を実施するとともに、学科改組に伴う教員室等の配置方針を検討する。

平成 29 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：安全衛生委員会

報告者 安全衛生委員会委員長・千葉 悦弥

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏 名	担当業務
委員長	千葉 悦弥 校長補佐(総務担当)	
委員	須田 志優 岩手県立磐井病院	産業医
〃	大嶋 江利子 教員	衛生管理者(有資格者)
〃	井手 克美 総務課長	防火・防災管理者
〃	柴田 勝久 教員	環境管理責任者
〃	後藤 勉 事務部長	
〃	中嶋 剛 機械工学科長	
〃	郷 富夫 電気情報工学科長	
〃	柴田 勝久 制御情報工学科長	
〃	二階堂 満 物質化学工学科長	
〃	千葉 圭 一般教科長(人文社会系)	
〃	高橋 知邦 一般教科長(自然科学系)	
〃	小岩 俊彦 技術長	
〃	平野 悦子 看護師	
〃		
総務課		会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 水質汚濁防止法に関する対策を、ワーキンググループの意見書に基づき引き続き検討する。
また他高専の状況等についても調査する。
- (2) IES の認証を打ち切るため、本校独自の環境マネジメントシステムへの移行に協力する。
- (3) 消防避難訓練実施において専攻科棟からの避難経路と誘導について検討する。

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

年度計画の実施状況

- (1) 本校周辺の下水道整備が進み、本校もこれに対する設備更新を申請する必要があるため水質汚濁法に関する対策に関するワーキンググループの意見書の検討は保留中である。なお化学実験等で使用された排水等は現在ポリタンクに回収し業者に処理を委託している。
- (2) 環境管理責任者が中心となり、IES 認証を停止し、本校独自の環境マネジメントシステムへ移行した。また平成 30 年度の環境マニュアル案も了承された。

(3) 消防避難訓練の学生避難経路を一部検討したが、平成 29 年度は悪天候のため学生の避難訓練は中止となり、本校職員のための訓練を実施した。

委員会活動全体の点検・評価内容

- ・校内安全巡視、法定点検等、環境改善目標達成への進捗状況の実施と報告を行った。(毎月)
- ・定期健康診断、ストレスチェック、インフルエンザ予防接種を実施した。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

- ・ヒヤリ・ハット報告書の教員会議での定期的な周知について
報告書提出時には教員会議にて報告することとした。今年度の報告は 2 件であった。
- ・安全巡視等の取組の公式サイトでの公開について
環境改善目標達成への進捗状況も含めて公式サイトでの公開を検討中である。

2.4 前年度からの改善(変更)項目(前述の改善の進言への対応以外)

- ・機械工場にウォーターサーバーを設置した。
- ・校内安全巡視の指摘事項が改善されない場合、平成 29 年 12 月分から管理者または使用者と所属長へ改善依頼書を配布し改善を促すことにした。

2.5 来年度の年度計画

- ・校内安全巡視、法定点検等、環境改善目標達成への進捗状況の報告(毎月)
- ・定期健康診断、ストレスチェック、インフルエンザ予防接種の実施
- ・消防避難訓練の実施

平成 29 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：ハラスメント防止対策室

報告者 ハラスメント防止対策室 室長・千葉 悦弥

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏 名	担当業務
室長	千葉 悦弥 校長補佐 (総務担当)	
室員	平林 一隆 保険管理センター長	
〃	中川 裕子 女性教員	
〃	井上 翔 男性教員	
〃	平野 悦子 女性職員	
〃	小岩 俊彦 男性職員	
カウンセラー	川原 詳子 カウンセラー	
カウンセラー	沖田 憲一 カウンセラー	
室員	井手 克美 総務課長	
総務課		会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1)4 学年学生対象のハラスメント防止講演会の開催
- (2)教職員対象のハラスメント防止講演会の開催

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

年度計画の実施状況

- (1)4 学年学生対象のハラスメント防止講演会の開催

日時：平成 30 年 1 月 25 日 14:45～15:45 会場：第一講義室

講師：カウンセラー 濱中ミオ氏 (仙台高専広瀬キャンパス相談室)

- ・参加学生から回収したリアクションペーパー数 65 枚 (感想 31 枚)
- ・対策室構成教員による寸劇もあり、関心を持たせる工夫のある講演会であった。
- ・平成 28 年度 (約 40 名) よりも参加学生は増えたが、さらに周知を徹底する必要がある。

- (2)教職員対象のハラスメント防止講演会の開催

日時：平成 30 年 1 月 10 日 15:00～16:00 会場：第一講義室

講師：藤田美代子氏 (株式会社インソース)

- ・平成 29 年度参加者は 48 名で平成 27 年度の参加者 87 名より減少した。平成 28 年度は講師の都合で実施していない。

委員会等活動全体の点検・評価内容

- ・4 学年学生対象と教職員対象のハラスメント防止講演会を年度計画通り実施したが、受講者数が少なく、全員参加のための周知徹底と、開催時期の設定を年度当初から実施する必要がある。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

- ・教職員対象のハラスメント防止講演会を今後毎年実施する計画である。
- ・教職員と学生の悩み相談の受付体制と対応フローについては、学生主事、保健管理センターと現在も検討中である。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

- ・厚労省のパワハラに関する動画ページ「明るい職場の応援団」へのサイト紹介

2.5 来年度の年度計画

- ・4 学年学生対象のハラスメント防止講演会の開催
- ・教職員対象のハラスメント防止講演会の開催
- ・上記の講演会での参加者を増やす工夫を検討し、実行する。
- ・悩み相談の受付窓口と対応フローの検討

平成 29 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：広報室

報告者 広報室 室長・千葉 悦弥

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
委員長	千葉 悦弥 校長補佐(総務担当)	
委員	三浦 弘樹 教務主事補	学校案内 ホットライン
〃	藤田 実樹 学生主事補	
〃	八戸 俊貴 寮務主事補	テレビ番組撮影
〃	大嶋 江利子 総務担当補佐	
〃	秋田 敏宏 副テクノセンター長	本校 HP (公式サイト)
〃	井手 克美 総務課長	
〃	中山 美喜也 学生課長	
〃	小岩 俊彦 技術長	
〃		
総務課		会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 早期の HP 公開とともに HP 管理維持のための体制づくりを行う。
- (2) 校章等の規則をまとめ決定する。
- (3) 学校案内、ホットライン、TV 番組の作成等

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

年度計画は以下のようにほぼ実施されたと判断する。 公式サイト外部リンクにおけるセキュリティ対策については下記2.4の通りまだ完全ではない。

外部リンクの扱いに

- (1) 早期の HP 公開とともに HP 管理維持のための体制づくりを行った。
 - ・ 5月24日 公式サイト一関高専 HP リニューアル作業終了、公開を開始した。
 - ・ 12月7日 「公式サイト管理運用に関する規則」が運営委員会において承認された。
 - ・ 学生作成 HP、教職員の HP 等への外部リンク申請書およびその規則を検討した。
- (2) 校章等の規則をまとめ決定する。
 - ・ スクールカラー、系・領域のカラーについて(校章取扱規則の改正等)
H29年5月10日の運営委員会にて規則改正等について承認され、スクールカラー、系・領域のカラー等について決定した。
- (3) 学校案内、ホットライン、TV 番組の作成等

- ・学校要覧作成（総務係）
- ・学校案内作成（教務主事補 教務係）
- ・本校紹介番組 放送 IBC テレビ 8月22日、8月29日、9月5日、9月12日（18:55~）
- ・本校紹介ポスター「ホットライン」作成

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

- ・本校公式サイトコンテンツや更新方法について継続的な点検見直しの体制づくり体制づくりを継続中で、運営規則はすでに作成済み、外部リンク申請について検討中である。
- ・学生に対する連絡方法について教務主事補案について教務主事と検討中である。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

- ・公式サイト外部リンクについて、セキュリティの観点から、運営規則にセキュリティ責任者名を追加するとともに、外部リンク申請についてもその点を配慮した方式に修正することを検討中である。

2.5 来年度の年度計画

- (1) 公式サイトからの外部リンク申請体制を整備する。
- (2) 学校要覧、学校案内、ホットライン、TV番組作成を行う。
- (3) 本校紹介番組の継続について検討する。

平成 29 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：進路指導室

報告者 進路指導室 室長・千葉 悦弥

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏 名	担当業務
室長	千葉 悦弥 校長補佐(総務担当)	
室員	大嶋 江利子 総務担当補佐	SPI 試験、ES 研修等
〃	中嶋 剛 機械工学科長	ガイダンス、研修等
〃	郷 富夫 電気情報工学科長	ガイダンス、研修等
〃	柴田 勝久 制御情報工学科長	ガイダンス、研修等
〃	二階堂 満 物質化学工学科長	ガイダンス、研修等
〃	大嶋 江利子 物質化学工学専攻長	ガイダンス、研修等
〃	井上 翔 4年機械工学科担任	ガイダンス、研修等
〃	谷林 慧 4年電気情報工学科担任	ガイダンス、研修等
〃	佐藤 陽悦 4年制御情報工学科担任	ガイダンス、研修等
〃	渡邊 崇 4年物質化学工学科担任	ガイダンス、研修等
〃	中山 美喜也 学生課長	
〃		
学生課		会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1)進路ガイダンス、就職進学ガイダンスの実施
- (2)各種講座の開催(インターンシップ、SPI、ES)
- (3)地域企業ガイダンスの参加連絡と集計
- (4)先輩の話を聴く会の実施
- (5)合同会社説明会の参加募集ととりまとめ
- (6)COC+プロジェクトとの連携をとりつつ、地元就職者数増加への対策を継続

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

平成 29 年度の計画はほぼ実施されたが、岩手県内企業への就職者数は COC+の目標値には至っていない。平成 28 年度本科の進学と就職の割合はほぼ 50%であったが、平成 29 年度は就職の割合が 55%となった。平成 29 年度から全国高専共通利用型進路支援システム導入の検討を開始した。

・平成 29 年度進路状況

本科（就職 55% 進学 45%）

就職希望者 82 名 就職先決定 82 名（100%）（M21 名 E27 名 S18 名 C16 名）

進学希望者 66 名 進学先決定 64 名（97%）（M17 名 E15 名 S18 名 C16 名）

専攻科（就職 81% 進学 19%）

就職希望者 22 名 就職先決定 22 名（100%）（AP20 名 AC2 名）

進学希望者 5 名 進学先決定 5 名（100%）（AP3 名 AC2 名）

岩手県内企業への就職者数と割合

本科 13 名/82 名（16%） 専攻科 1 名/22 名（5%）

宮城県内企業への就職者数と割合

本科 14 名/82 名（17%） 専攻科 4 名/22 名（18%）

年度計画の達成度

(1)計画通り実施された。

- ・進路ガイダンス 4 学年対象 6 月 16 日（クラスごとに実施）
- ・進路ガイダンス（4 年、専攻科 1 年対象）10 月 26 日(木) 第一講義室 15:00～
就職・進学の概要説明（ガイドブック配布）、手続き等について説明

(2)計画通り実施された。

SPI 試験の参加人数は平成 28 年度と比較して、筆記式は 42 名から 28 名と現象したが、Web 式は 34 名から 77 名となり Web 式が大幅に増加した。

- ・インターンシップ・マナー講座 7 月 18 日（第一講義室）講師：株式会社マイナビ
- ・SPI 模擬試験（筆記、学研アソシエ）12 月 21 日 1000 円
M3 名、E1 名、S8 名、C13 名、AP0 名、AC3 名 合計 28 名（平成 28 年度 42 名）
- ・SPI 模擬試験（Web、学研アソシエ）3 回（1 月～6 月）2000 円
M7 名、E19 名、S9 名、C20 名、AP18 名、AC4 名 合計 77 名（平成 28 年度 34 名）
- ・第 1 回 ES 書き方講座（自己分析編）12 月 11 日 参加 160 名
- ・第 2 回 ES 書き方講座（実践編）1 月 22 日 参加 160 名

(3)計画通り実施された。参加学生総数は 143 名、保護者 100 名であった。

進学希望学生は参加しないことが多いが半数以上の学生が参加した。

- ・地域企業ガイダンス（4 年、専攻科 1 年を対象とし全員に周知した。）
10 月 28 日(土)12:30～15:30 第一体育館
対象学生報告書提出数（本科 118/164 専 25/32）、保護者 77 組（約 100 名）

(4)計画通り実施された。

- ・先輩の話を聴く会（4 年クラスごとに 12 月～1 月 実施）
4M（5M 就職：佐々木 智 進学：長野 尚人）
4E（5E 就職：熊谷 隼太 進学：渡邊 尚登）
4S（5S 就職：千田 創一郎 進学：長瀬 幸太郎）

4C (5C 就職：小坂 徹 進学：平澤 信太郎)

(5)計画通り実施された。

合同会社説明会の参加学生数は昨年度より参加学生数は増加した。

- ・高専生のための業界研究セミナー・キャリアデザイン編（学研アソシエ）
12月23日 仙台サンフェスタ 参加学生数54名（平成28年度47名）
- ・高専生のための仕事研究セミナー（メディア総研）
1月13日 ゼビオアリーナ仙台 参加学生数60名（平成28年度43名）
- ・高専生のための業界研究セミナー・就活本番編（学研アソシエ）
3月6日 仙台国際センター（参加は学生個人のため参加学生数は不明）
- ・高専生のためのマイナビ就職セミナー（マイナビ）
3月10日 メルパーク仙台（参加は学生個人のため参加学生数は不明）

(6)COC+プロジェクトとの連携をとりつつ、地元就職者数増加への対策を継続

- ・地元企業や本校教育研究振興会企業への呼びかけと情報交換を継続している。
- ・ガイダンスにおいて地元企業就職のメリット等の説明を実施した。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

- ・SPI対策模擬試験の適正な受験者数（人数の数値目標）についての確認について
就職希望者は全員受験させることが理想であるが、有料であるため学生の受験意識を向上させるようガイダンスの際の周知を今後も継続したい。今年度の本科、専攻科の就職希望者数は合計104名であるが、SPI模擬試験（筆記+Web）のべ受験者数は105名でほとんどの就職希望学生が受験しているとみられる。
- ・COC+プロジェクトとの連携と地元就職者数増加への対策について
ガイダンスにおいて地元就職のメリットも周知しているが、本校は宮城県と岩手県の県境に位置しており岩手県内企業への就職者数の割合は16%とCOC+の目標の半分程度である。宮城県内企業への割合17%を含めれば3割以上の学生が地元企業へ就職内定している。
- ・進路指導の取組みについての学生の満足度調査およびニーズ調査について
平成29年度は特に調査は実施していないが、今後卒業前のアンケート調査実施を検討したい。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

- ・全国高専共通利用型進路支援システムについて
本システムは企業からの求人票を電子化しWeb上で閲覧できるシステムで、学生支援系の業務軽減や学生の学外からの閲覧等の可能性がある。本校は本システムの試用を希望した。現在、本システムの連絡協議会の規約と利用規約を作成する動きが有り、今後の動きの様子をみることで、試用状況から参加を検討する予定である。

2.5 来年度の年度計画

(1)進路ガイダンス、就職進学ガイダンスの実施

- (2)各種講座の開催(インターンシップ、SPI、ES)
- (3)地域企業ガイダンスの参加連絡と集計
- (4)先輩の話を聴く会の実施
- (5)合同会社説明会の参加募集ととりまとめ
- (6)全国高専共通利用型進路支援システム導入の検討

平成 29 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：地域共同テクノセンター運営委員会

報告者（役職・氏名） 地域共同テクノセンター運営委員会委員長・戸谷一英

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
委員長	戸谷 一英	委員会業務の掌握
委員	若嶋振一郎	地方創生部門
〃	秋田 敏宏	人材育成部門
〃	滝渡 幸治	研究推進部門
〃	小野 孝文	地域共同テクノセンター運営全般
〃	八戸 俊貴	〃
〃	藤田 実樹	〃
〃	小保方幸次	〃
〃	福村 卓也	〃
〃	渡辺 仁史	〃
〃	佐藤 昭規	産学官連携コーディネータ
〃	後藤 勉	事務部門
総務課	千葉 正義	会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 増募対応の公開講座の区分け（増募対応講座，一般講座）実施
- (2) 外部資金獲得のチャンスを増やすために，機構から発信される公募案内について，サイボーズ掲載に加え，全教員へ発信する。また，他の公募情報も総務課に集める。
- (3) H28 年度で地域イノベ事業が終了するので，次の事業への応募に対応する。文科省「エコシステム」事業，総務省「地方創生推進交付金」事業など。これらには，H29 年 3 月から対応している。
- (4) 「技術相談」の内容をテクノセンター内で共有する。
- (5) コーディネータ教員を置き，技術相談などを活性化する。
- (6) 一関市の支援を受け一般公開講座 4 講座開講（原価管理，品質工学，MOT，CSWA）する。

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) 増募対応の公開講座の区分け（増募対応講座，一般講座）実施
増募対応の公開講座の区分けを行い，小中学生向けの講座は，教務で実施した。
- (2) 外部資金獲得のチャンスを増やすために，機構から発信される公募案内について，サイボーズ掲載に加え，全教員へ発信する。また，他の公募情報も総務課に集める。
すべての公募案内について，サイボーズ掲載では周知が徹底しないため，総務課からメール

で全教員へ信を行った。また、教員会議の資料へ掲載し教員へ周知を行った。

- (3) H28 年度で地域イノベ事業が終了するので、次の事業への応募に対応する。文科省「エコシステム」事業、総務省「地方創生推進交付金」事業など。これらには、H29 年 3 月から対応している。

岩手県が事業（申請）主体として、厚生労働省 地域創生人材育成事業に本校も加わり申請し採択された。平成 30 年度より約 3,700 万円/年×3 年間で事業を実施する。

- (4) 「技術相談」の内容をテクノセンター内で共有する。
共有した。
- (5) コーディネータ教員を置き、技術相談などを活性化する。
テクノセンター長、副センター長及びコーディネータ教員を中心として技術相談などの活性化に務めた。
- (6) 一関市の支援を受け一般公開講座 4 講座開講（原価管理、品質工学、MOT、CSWA）する。
一関市委託事業ものづくり産業振興事業として（原価管理、品質工学、MOT、CSWA、CSWP）の一般及び本校学生を対象として公開講座を開講した。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

H28 年度改善の進言：

- ・ 出前講座、地域連携活動、外部会議出席などの業務に、限られた人員で対応できるように業務を精査してほしい。
- ・ H27 年間活動報告書に係る検証と改善の進言（2 件目＝ひらめき★ときめきサイエンスの広報）について、継続して検討をお願いしたい。
- ・ テクノセンター運営委員会の開催回数を増やして組織としての活動が求められる。
- ・ 「企業情報交換会」での「技術相談コーナー」の開設は評価できる。
- ・ 教員会議等で外部資金獲得状況を報告した方がよい。
- ・ 地域共同テクノセンター建物の今後の活用について、戦略的に議論してほしい。
- ・ 地域イノベ事業（平成 28 年度事業終了）を核とした人材育成活動が地域企業技術者の能力向上に大きく貢献してきたことは評価できる。今後は、自治体との連携による継続的な企業人材育成の仕組みを構築すると共に、教職員の負担を考慮した効果的な活動になることを期待したい。

改善の進言への対応：

- ・ 出前講座、地域連携活動、外部会議出席などの業務に、限られた人員で対応できるようにやるべき業務を精査した。
- ・ 科学技術イノベーションを牽引する傑出した人材の育成に向けて、理数・情報分野の学習等を通じて、高い意欲や突出した能力を有する小中学生を発掘し、さらに能力を伸長する体系的育成プランの開発・実施を行うことを支援する JST ジュニアドクター育成塾への申請に向けて調査を行った。
- ・ テクノセンター運営委員会を前年度より多く開催した。
- ・ 「企業情報交換会」での「技術相談コーナー」を今年度も開設した。
- ・ 教員会議等で外部資金獲得状況を報告した。
- ・ 地域共同テクノセンター建物の今後の活用や共同研究室の活用方法について議論を行った。

- ・平成 29 年度は、岩手県と協力して厚生労働省の地域創生人材育成事業（EV ミニアカデミー及び R&D アカデミーの開設）への申請を行った。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

平成 28 年度末に一関市と地方創生推進会議を月 1 回のペースで開催し、地方創生のための総務省などの地方創生推進交付金（補助率 50%）の獲得を目指しながら一関市での予算化の可能性検討を行ってきた。今年度は中学生を対象とした平成 30 年度に EV 体験講座を開催することを検討したが、30 年度の予算化は困難となった。

一方で、岩手県を事業主体とする社会人、大学生、求職者を対象とした厚生労働省の「地域創生人材育成事業」が採択となり、一関高専は「EV 人材育成事業」の委託先として平成 30 年度 7 月からの事業実施が決まった。

2.5 来年度の年度計画

- (1) テクノセンター運営委員会をテクノセンター委員会と改称し、運営委員を 3 名減らし 12 名から 9 名体制（センター長 1 名、副センター長 3 名、副部門長 3 名、CD1 名、事務部長）にし、実働部隊とする。
- (2) 岩手県と協力して厚生労働省の地域創生人材育成事業（EV 講座開催と地元企業共同研究の両輪。H30 年から 3 年。委託費 109.461 千円）を立ち上げる。①連携する工業高校や産業技術短大向けに「EV ミニアカデミー」を実施する。②企業技術者・高専生・求職者向けに「EV アカデミー」を実施する。③高度企業技術者等向けに「R&D アカデミー」を開催する
- (3) EV 人材育成事業を JICA・ODA の普及・実証事業に申請する。
- (4) 科研費勉強会を複数回実施する。科研費の申請率 90%以上を目指し、そのための環境を整える。
- (5) 競争的資金の獲得を目指し、JST や高専機構 KRA の個人面談会や公募説明会を開催する。財団系公募への積極的な申請を促す。
- (6) 一関市の支援を受け企業技術者・管理者向けの公開講座（一関市委託ものづくり産業振興事業：品質工学，MOT，原価管理，3D CAD）を実施する。
- (7) JST 等より依頼された招待講演や、「いわて半導体関連産業集積促進協議会」、東北工学教育協会主催の「産学交流の日」などで地域創生のために積極的な招待講演を行う。
- (8) 全国レベルの産官学連携催事（イノベーションジャパン，メッセナゴヤ 2018 など）や学会・国際会議に参加する。
- (9) 地域貢献の一環として「いわてサイエンスシンポジウム」，「おおさき産業フェア 2017」，「リエゾン-I マッチングフェア」，「産学官金連携フェア 2019 みやぎ」，「一関市企業情報交換会」などへ出展する。
- (10) JST のジュニアドクター育成塾への申請に関する調査を行う。
- (11) 鶴岡高専の K-ARC，東京高専の社会実装教育において高専間連携や共同研究を推進する。

平成 29 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：地域共同テクノセンター運営委員会知的財産部会

報告者（役職・氏名） 地域共同テクノセンター運営委員会知的財産部会長・戸谷一英

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
部会長	戸谷 一英（地域共同テクノセンター長）	部会業務の掌握
委員	明石 尚之（教務主事）	部会業務
〃	中山 淳（専攻科長）	部会業務
〃	若嶋振一郎（副地域共同テクノセンター長）	部会業務
〃	秋田 敏宏（副地域共同テクノセンター長）	部会業務
〃	滝渡 幸治（副地域共同テクノセンター長）	部会業務
〃	貝原巳樹雄	部会業務
〃	井手 克美（総務課長）	部会業務
〃	中山美喜也（学生課長）	部会業務
総務課	千葉 正義	会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

平成 28 年度年間活動報告書に記載無し

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

平成 28 年度年間計画が定められていないためなし

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

H28 年度改善の進言：

- ・ 承継は共同出願とライセンス先が明確な場合に限り、共同出願の場合は、出願費用は企業持ちが原則であることを周知する。
- ・ 知財案件を迅速に処理する仕組みを構築してほしい。

改善の進言への対応：

- ・ 上記を意識した対応を心がけた。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

特になし

2.5 来年度の年度計画

- (1) 知財部会の人員削減を検討する。
- (2) 高専機構本部の知財出願方針に沿った学内の基準を検討する。
- (3) 知財案件を迅速に処理するために、高専機構の原則「①承継は、知財が強い場合、共同出願とライセンス先が明確な場合に限ること、②共同出願の場合は出願費用は企業持ちが原則であること」を教員へメール等で周知する。
- (4) 知財部会における審議において「高専機構の原則」を意識した審議を行う。そのために高専機構知財コーディネータの活用を検討する。

平成 29 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：点検評価委員会

報告者（役職・氏名） 点検評価委員会委員長・福村 卓也

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
委員長	福村 卓也 (校長補佐(評価担当))	委員会業務の掌理
委員	明石 尚之 (副校長(教務担当))	委員会業務
〃	白井 仁人 (副校長(学生担当))	〃
〃	松尾 幸二 (副校長(寮務担当))	〃
〃	戸谷 一英 (副校長(研究・地域連携担当))	〃
〃	中山 淳 (校長補佐(専攻科担当))	〃
〃	千葉 悦弥 (校長補佐(総務担当))	〃
〃	千田 栄幸 (評価担当補佐)	委員長の補佐
〃	井手 克美 (総務課長)	委員会業務
〃	中山美喜也 (学生課長)	〃
総務課	阿部 恵悦 (企画・情報係長)	会務

2 自己点検・自己評価

2.1 平成 29 年度計画

- (1) 平成 28 年度年間活動報告書に基づく学内組織の活動の点検および評価
- (2) 平成 24 年度機関別認証評価における指摘事項への対応
- (3) 運営諮問会議の実施
- (4) 自己評価用資料の定常的な収集・保管方法に係る検討
- (5) 授業アンケートの回答率の向上
- (6) 高等専門学校機関別認証評価に係る自己評価書の作成
- (7) 学外アンケートの実施

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

(1)平成 28 年度年間活動報告書に基づく学内組織の活動の点検および評価

本件に係り第 1 回から第 3 回点検評価委員会において審議を行い、第 5 回運営委員会において点検評価委員会規則第 3 条第 2 号に基づき学内組織に対して活動の改善の進言を行った。改善の進言の策定過程において活発な意見交換が行われ、各委員からの視点を踏まえた質の高い改善の進言が行えたことと評価する。平成 30 年度からの高等専門学校機関別認証評価において学内での内部質保証システムが重点的に点検・評価されることから、今後は学内組織への活動の改善の進言を行った後に、年度途中において該当学内組織の対応状況をフォローアップする制度の導入が望まれる。

(2)平成 24 年度機関別認証評価での指摘事項への対応

平成 24 年度認証評価での指摘事項の中で未対応であった最後の事項について、教務委員会を中心として、教育目標の小項目の策定を行うことができた。平成 30 年度以降の機関別認証評価からは、実地審査において改善を要すると指摘された事項への対応を 2 年以内に行うフォローアップ制度が導入されることから、平成 30 年度以降は学内意思決定プロセスの迅速化が求められる。

(3)運営諮問会議の実施

点検評価規則第 3 条第 2 項に基づき 12 月 5 日(火)に平成 29 年度運営諮問会議を開催した。平成 29 年度は、「一関工業高等専門学校で取り組む COC+事業について」と「学生の自主的活動（課外活動、未来創造チャレンジ）の支援と成果」の 2 つのテーマを諮問した。本校が中長期的に重視している 2 つのテーマについて忌憚のない意見交換が行われたことと評価する。

(4)自己評価用資料の定常的な収集・保管方法に係る検討

資料の収集方法等を議論する機会を設けなかったが、第 8 回点検評価委員会において、資料収集の負担軽減を考え、平成 30 年度以降は広報室等との連携のもと、各種活動(FD、特色ある授業等)の Web 公開を進めることを確認した。

(5)授業アンケートの回答率の向上

平成 28 年度より授業アンケートを Moodle 上で実施している。平成 28 年度前期および後期のアンケート回答率はそれぞれ 69.6%と 70.2%であったが、平成 29 年度の前期と後期の回答率は 74.9%と 75.6%となり、前年度と比較してアンケート回答率が向上した。これは Moodle を用いてのアンケートが学生に浸透してきたことが要因と考える。また、1 年生全体の回答率は 100%に近いが、これは情報リテラシー等の情報演習系授業において、担当教員が適切に指導を行っているためと考える。アンケート実施時に電算室の授業がないクラスもあるため、教室においてスマートフォンを用いた回答の促進が望まれる。

(6)高等専門学校機関別認証評価に係る自己評価書の作成

平成 30 年度からの新基準の認証評価の様式に従う平成 29 年度自己評価書を作成した。自己評価書原案の作成を点検評価委員会評価対応部会に指示した。原案を基に点検評価委員会が編集した最終版を作成し、平成 30 年 3 月の教員会議で報告することができた。

(7)学外アンケートの実施

企業向け、中学校向けおよび卒業後 5 年経過した本科卒業生・専攻科修了生向けのアンケートを実施し、本科卒業生から 22 人(回答率 14.8%)、専攻科修了生から 5 人(20.8%)、本科卒業生就

職先企業から 74 社(31.6%)、専攻科修了生就職先企業から 34 社(51.5%)、中学校から 116 校(73.4%)の回答があった。

(8)点検評価委員会の活動全体について

平成 29 年度の点検評価委員会全体の活動をみると、新基準の認証評価に即した内部質保証システムをある程度構築できたと考える。具体的には、点検評価規則、点検評価委員会規則および点検評価委員会評価対応部会規則の改正や、点検評価関係図の改定、さらには自己点検・評価実施要領、外部評価実施要領、機関別認証評価対応要領、JABEE 審査対応要領の作成などである。また、学内組織に対して様々な改善の進言を実施できたことも評価できる。平成 29 年度に構築した内部質保証システムは学校活動改善の重要な取り組みであり、平成 30 年度以降に有効に生かされることが重要と考える。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

点検評価委員会の平成 28 年度年間活動報告書について、改善の進言はなかった。

2.4 前年度からの改善(変更)項目(前述の改善の進言への対応以外)

- ・年間活動報告書の点検作業が比較的円滑に進んだと評価する。
- ・下部組織である評価対応部会と効果的に連携して平成 29 年度自己評価書を作成することができた と評価する。
- ・授業アンケートの回答率が向上したことはある程度評価できる。

2.5 平成 30 年度の年度計画

- (1)平成 29 年度自己点検評価報告書に基づく学内組織の活動の点検および評価
- (2)平成 30 年度自己評価書および選択的評価事項自己評価書の作成
- (3)運営諮問会議の実施
- (4)自己評価用資料の定常的な収集・保管方法に係る検討
- (5)授業アンケートの回答率の向上のための方策の検討

平成 29 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：点検評価委員会評価対応部会

報告者（役職・氏名）評価対応部会部会長・福村 卓也

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
部会長	福村 卓也 (校長補佐(評価担当))	部会業務の掌理
副部会長	千田 栄幸 (評価担当補佐)	部会長の補佐
委員	小保方幸次 (生産工学専攻長)	機関別認証評価に係る自己評価書の作成 授業アンケートの設定業務
〃	大嶋江利子 (物質化学工学専攻長・ 総務担当補佐)	〃
〃	小野 孝文 (教務主事補)	〃
〃	原 圭祐 (学生主事補)	〃
〃	八戸 俊貴 (寮務主事補)	〃
〃	滝渡 幸治 (副地域共同テクノセン ター長)	〃
総務課・学生課	阿部恵悦(総務課企 画・情報係長)・鈴木 啓文(学生課教務係 主任)	会務、授業アンケート

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1)機関別認証評価に係る自己評価書の作成
- (2)授業アンケート実施に関する業務

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1)機関別認証評価に係る自己評価書の作成

本校は平成 31 年度中に大学改革支援・学位授与機構による高等専門学校機関別認証評価を受審する。本部会の上部組織である点検評価委員会からの自己評価書作成の指示を受け、平成 30 年度の認証評価基準に基づく自己評価書の作成を行った。基準ごとに担当を分担し、平成

29年12月14日に平成29年度自己評価書(評価対応部会案)を完成させ、本自己評価書案を点検評価委員会に報告した。部会として組織的に活動し、当初の計画に従って自己評価書を完成させることができたことについては高く評価できる。

平成30年度より、評価対応部会の業務に、自己評価書の作成や授業アンケートに関する事項に加えて、自己点検評価報告書の点検作業が入り、部会活動の重要性が増す。このため、平成30年度からはより定常的な評価対応部会の開催が必要となる。

(2) 授業アンケート実施に関する業務

平成29年度前期授業アンケート(平成29年9月27日(水)～10月20日(金))および後期授業アンケート(平成30年2月7日(水)～3月2日(金))を実施した。前期授業アンケートの回答率は74.9%、後期の回答率は75.6%であった。学年やクラス毎に回答率にバラツキが見られるが、昨年度と比較して回答率は向上傾向にある。今後とも、点検評価委員会と連携して授業アンケートの回答率の向上を図る必要がある。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

評価対応部会の平成28年度年間活動報告書について、改善の進言はなかった。

2.4 前年度からの改善(変更)項目(前述の改善の進言への対応以外)

前年度(平成28年度)は会議が開催されなかったが、会議を3回開催することができ、部会としての活動ができた。

2.5 来年度の年度計画

- (1) 機関別認証評価に係る平成30年度自己評価書の作成
- (2) 学内組織の平成29年度自己点検評価報告書の点検
- (3) 授業アンケート実施に関する業務

平成 29 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：図書館専門部会

報告者（役職・氏名） 図書館専門部会長・二本柳譲治

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
部会長	二本柳譲治	部会業務の統括
委員	中嶋 剛	
〃	小野 孝文	
〃	河原田 至	
〃	貝原巳樹雄	
〃	中山美喜也	
学生課	大山 稔哉	会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 新入生オリエンテーションにおける図書館案内
- (2) 図書館ガイダンスの実施
- (3) 一日体験入学での説明
- (4) 図書館専門部会会議の開催
- (5) 「図書館だより」の発行
- (6) 研究紀要第 52 号の編集
- (7) 読書感想文コンクールの実施
- (8) ブックハンティングの実施
- (9) 図書館関係団体組織・機関主催会議等への参加

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

年度当初の事業計画に沿って各行事を実施した。

利用者のニーズにより対応できるように定期購読雑誌の見直し等の検討を行った。また予算や業務の効率化と言う観点からも事業の検討を行い図書館だよりの発行形態等について審議を進めた。さらに、電子ジャーナルの購読に関しても中期的な観点から見直しを進めた。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

ブックハンティングの実施日時を従来の高専祭翌日から夏季休業中へと変更することにより、多様な学生の参加を図った。今年度は、同時期に他の行事との重複が生じたため参加者の顕著な増加にはつながらなかったが、次回は日時を再調整することにより参加者の増加が期待される。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

「図書館だより」を年2回発行することにより、読書感想文コンクールの受賞者を年度内に周知することができた。前年度より継続的に検討している電子化などへの移行が実現すれば、より速報性を持たせた周知活動が可能となると考える。

2.5 来年度の年度計画

- (1) 新入生オリエンテーションにおける図書館案内
- (2) 図書館ガイダンスの実施
- (3) 一日体験入学での説明
- (4) 図書館専門部会会議の開催
- (5) 「図書館だより」の発行
- (6) 研究紀要第53号の編集
- (7) 読書感想文コンクールの実施
- (8) ブックハンティングの実施
- (9) 図書館関係団体組織・機関主催会議等への参加

平成 29 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：電子計算機室専門部会（情報セキュリティ推進委員会）

報告者（役職・氏名） 電子計算機室長・小保方幸次

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
部会長	管隆寿（前期）	電子計算機室長
部会長	小保方幸次（後期）	〃
委員	井上翔	電子計算機室員
〃	千田栄幸	〃
〃	小林健一	〃
〃	佐藤和久	〃
〃	二本柳譲治	
	三浦正治（前半）	技術長
〃	小岩俊彦（後半）	〃
〃	高橋説夫	
〃	和田史明	
〃	横田礼	
総務課		会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- ・高専統一ネットワークシステム導入
工事日：8月29日（月）、29日（火）
予備日：8月30日（水）
- ・本校ネットワークサービスの見直し
現システムのリース延長
学外サーバーの利用
- ・講習会
情報セキュリティポリシー講習会（全職員対象）
ネットワーク利用講習会（本科1年生、編入学生、専攻科1年生、短期留学生、4年生）
- ・ネットワーク構成の見直し
ファイヤウォールの設定他
- ・研修会
TOPIC 研修会
高専フォーラム
情報セキュリティ EXPO
高専機構主催情報担当研修会

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- 4/3 情報セキュリティ講習会(参加者数 78 名)
- 4/6 ネットワーク利用講習会(編入学生、専攻科生)
- 4/7 ネットワーク利用講習会(短期留学生)
- 4/27,28 TOPIC 総会および研修会(仙台:管、千田、横田)
- 8/28,29,30 高専統一ネットワークシステム切替作業(校内 LAN および全サービス停止)
- 5/16 第 1 実習室の左側のスクリーンが落下。原因は業者の取り付けミス。6/9(金)に修理完了。
- 5/24 教育用システム打ち合せ
- 6/2 ネットワーク利用講習会(短期留学生)
- 6/12 統一ネットワークシステム基本設計書説明会(富士通)
- 6/21 電子計算機室専門部会及び情報セキュリティ推進委員会合同会議
議題
 - 1. 電子計算機室関連委員会構成委員
 - 2. 今年度の予算
 - 3. 高専統一ネットワークの導入(校内 LAN の更新)
 - 4. 来年度のサーバー機器運用
- 6/23 教育用システム打ち合せ
- 6/26 校内 LAN 定期保守
- 6/27～ SSL サーバー証明書更新作業(メールサーバー、Moodle、学認、UnifIDone)
- 7/6 高専統一認証基盤システムのメンテナンス
- 7/20 インシデント対応
- 7/25 高専統一ネットワークシステム切替作業打ち合せ(富士通、ネットワンシステムズ)
- 7/26 教育用システム打ち合せ
- 7/26 インシデント対応
- 8/22,23 高専フォーラム(長岡:管)
- 8/27 高専統一ネットワークシステム機器搬入
- 8/28 インシデント対応
- 8/28,29,30 高専統一ネットワークシステム切替作業(校内 LAN および全サービス停止)
- 8/29 教育用システム定例会
- 8/30 Office365 利用再開(教職員アカウントのみ)
- 9/10 停電のため校内 LAN および全サービス停止
- 9/10 校内 LAN システム定期保守
- 9/13 インシデント対応
- 9/21,22 平成 29 年度 TOPIC ネットワーク担当職員研修会(秋田:横田)
- 9/29 本校旧 Web サーバー停止
- 9/29 教育用システム定例会
- 9 月下旬 昨年度の卒業生の Gmail のアカウントをロック
- 10/20 教育用システム定例会
- 10/25-27 情報担当者研究会(小保方:横田:阿部:千田※)

12 電子計算機室専門部会（情報セキュリティ推進委員会）

11/20 教育用システム定例会

12/18 教育用システム定例会

1/25 教育用システム定例会

1/31 電子計算機室専門部会及び情報セキュリティ推進委員会合同会議
議題

1. 予算執行状況
2. 校内 LAN システムのリース延長
3. 電算室利用状況報告
4. 高専統一ネットワーク切り替え後の現状報告

2/13 インシデント対応

2/16 ネットワーク利用講習会(4年生:M:25/26,E:33/37,S:37/37,C:33/40)

2/20 教育用システム定例会

2/22 標的型訓練メール(1-1回目)

2/23 標的型訓練メール(1-2回目)

3/4 インシデント対応

3/6 標的型訓練メール(2-1回目)

3/8,9 校内 LAN システム定期保守

3/9 標的型訓練メール(2-2回目)

3/9 教育用システム定例会

3/13 情報セキュリティトップセミナー(GI-net)

3/26- 学内システム年度更新

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

なし

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

業務軽減のため電子計算機室の開室時間延長を週1回（木曜日）取りやめた。

2.5 来年度の年度計画

- ・本校ネットワークサービスの見直し
システム構成の検討
次期教育システムの検討
- ・講習会
情報セキュリティポリシー講習会（全職員対象）
ネットワーク利用講習会（本科1年生、編入学生、専攻科1年生、短期留学生、4年生）
- ・ネットワーク構成の再検討
ファイヤウォールの設定他
- ・研修会
TOPIC 研修会
高専フォーラム

12 電子計算機室専門部会（情報セキュリティ推進委員会）

- 情報セキュリティ EXPO
- 高専機構主催情報担当研修会
- ・情報セキュリティ監査

平成29年度自己点検評価報告書

委員会・室名等:保健管理センター

報告者(役職・氏名)保健管理センター長・平林一隆

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
センター長 一般教科支援員	平林 一隆	保健管理センターの業務の掌理 一般教科との連絡・調整、学生支援
副センター長 教務主事補	照井 教文	保健管理センター長の補佐 教務委員会との連絡・調整
学生主事補 機械工学科支援員	原 圭祐	学生委員会との連絡・調整 機械工学科との連絡・調整、学生支援
寮務主事補	千田 芳樹	寮務委員会との連絡・調整
電気情報工学科 支援員	秋田 敏宏	電気情報工学科との連絡・調整 学生支援
制御情報工学科 支援員	小野 宣明	制御情報工学科との連絡・調整 学生支援
物質化学工学科 支援員	二階堂 満	物質化学工学科との連絡・調整 学生支援
学生課長	中山 美喜也	学生課との業務連携
学生支援係長	高橋 寛子	保健管理センター運営委員会の事務
看護師(養護教諭)	平野 悦子	養護教諭、学生看護、インターカー
事務補佐員	小野寺加奈子	保健管理センター全般の事務補佐

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 4月6日 入学式:保健管理センター長の保護者向け説明
- (2) 4月7日 始業式:カウンセラーの話(川原先生)
- (3) 4月10日 新入生校内オリエンテーション:カウンセラーの話(沖田先生)
- (4) 4月26日 第2学年特別活動「対人関係スキルアップ講座」
講師:根田真江 先生
- (5) 6月14日 第1～3学年:メンタルヘルス講演会
- (6) 6月24日 保護者懇談会全体会:保健管理センター長説明
- (7) 7月 ハイパーQUの実施(1～3年)
→夏休み明けに担任へデータ配付、分析
- (8) 9月下旬～10月上旬「こころと身体のアナケート」
→結果を受け、要注意学生との個別面談
- (9) 10月11日 第1学年特別活動「いのちと性に関する講演会」
講師:八戸学院短期大学 羽入雪子 先生

- (10) 11月8日 第2学年特別活動「薬物乱用防止講演会」
- (11) 12月4日 FD研究会
学生のメンタルヘルスについて
講師:村上クリニック院長 村上公敏 先生
- (12) 1月～3月 要支援学生の支援継続・引継ぎの対策、新入生との面談

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

○年度計画を含む

- (1)4月6日 入学式、要支援学生についての教職員向け説明会
要支援学生についての教職員向け説明会を実施した。要支援学生の特徴、指導上の留意点などを確認し、学生の特性に則した効果的な指導についての意見交換を実施した。
- (2)4月7日 始業式(川原カウンセラーの話)・健康診断(全学年)
始業式で、学生に向けて川原カウンセラーから学生相談室に関する講話を実施した。
- (3)4月10日 新入生校内オリエンテーション(センター長・沖田カウンセラーの話)
新入生向けに、センター長から保健管理センターの説明を、沖田カウンセラーからこころの健康維持についての講話を実施した。
- (4)4月11～12日 新入生校外オリエンテーション(看護師同行)
校外オリエンテーションで、要支援学生の状況把握・支援を実施した。
- (5)4月 保健調書(2～5学年、専攻科)
全クラスの保健調書を回収し、健康管理の情報を整備した。
- (6)4月28日 第2学年「対人関係スキルアップ講座」
グループエンカウンターを実施して、新クラスの交流を図った。
- (7)4月～5月 追加:内科診察
内科診察を実施した。
- (8)6月14日 全校一斉アンケート:高専機構本部依頼「こころと体の健康調査」
いじめアンケート(いじめ防止委員会主催)
高専機構本部からの要請で、「こころと体の健康調査」を当初の実施予定より早めて、全学年に実施した。
- (9)6月17～18日 全国高等教育障害学生支援協議会:平林・照井参加
標記協議会に参加し、障がい支援を含む学生支援の大学・高専における組織と運営について現状や課題を学び、本校での活動の参考とした。
- (10)6月24日 保護者懇談会全体会:保健管理センター長説明
保護者向けに保健管理センターの説明と、学生の心身の健康について講話した。
- (11)6月20・27日 歯科検診(1～5学年)
歯科検診を実施した。
- (12)7月 ハイパーQUの実施(1～3学年)
ハイパーQUを実施した。
- (13)7月24日 学校薬剤師による環境検査(水質検査)
水質検査を実施した。

- (14)8月21～22日 平成29年度障害学生支援実務者育成研修会(基礎):照井参加
研修に参加し、学生支援実務力の向上を図った。
- (15)9月11・12日 ハイパーQUの結果に関する担任とカウンセラーの意見交換
ハイパーQUの結果を、川原カウンセラーに解析・説明してもらい、担任と情報共有をして
学級運営の効果的な進め方を話し合った。
- (16)9月14～15日 平成29年度障害学生支援実務者育成研修会(応用前期):平林参加
研修に参加し、学生支援実務力の向上を図った。
- (17)10月10～11日 第14回全国国立高等専門学校学生支援教職員研修:平林・照井参加
全国高専の学生支援について、情報交換を行い運営の参考とした。
- (18)10月11日 第1学年「いのちと性に関する講演会」
生命の大切さなどについて、学生の意識向上を促した。
- (19)10月25日 第2学年「薬物乱用防止講演会」(学生委員会主催)
薬物乱用の危険性を理解させて、被害に陥らないよう注意喚起した。
- (20)11月14日 第13回東北地区学生相談連絡協議会(GI-net):平林・照井・平野参加
東北地区高専学生相談室関係者での情報交換を実施した。
- (21)11月21日 第1学年「健康教室」(学生委員会共催)
喫煙の害などを理解させ、普段からの健康維持についての関心を高めた。
- (22)11月30日 FD研修会「メンタルヘルス講演会」
精神科医の講演を聴講して、学生のメンタルヘルスについて教職員の専門的知識および関心を
高めた。
- (23)12月4日 平成29年度障害学生支援実務者育成研修会(応用後期):平林参加
障がい学生の対応について、具体的課題解決のための対応策を検討して、実務能力を向上す
る研修をした。
- (24)1月25日 第4学年「ハラスメント防止講演会」(ハラスメント防止委員会主催)
ハラスメントについての理解を深めて、ハラスメントの加害者、被害者にならないように注意喚起
した。
- (25)2月21日 保健管理システムについての説明会(GI-net):平林・照井・平野参加
新しい保健管理システムについて、本校での導入が可能かどうか検討した。
- (26)2月22日 学校薬剤師による環境検査(教室の二酸化炭素濃度、照度の検査)
教室の二酸化炭素濃度、照度の検査を実施した。
- (27)3月20日 障がい学生についての教職員向け説明会:平林
来年度入学予定の障がい学生に対して、教職員向けに事前説明会を開催して、入学後の対応・
配慮について学内での共通認識を形成した。
- (28)3月22日 障がい学生の校内案内(導線確認):平林・平野
入学予定の障がい学生に対して、実際に学内を移動してもらい、実地で不具合がないかどうかを
事前確認し、対策が必要な個所は極力入学まで対応することにした。

- ・第1～3学年「メンタルヘルス講演会」以外の計画した行事は、全て実施した。
- ・機構本部から自殺防止のアンケートを緊急に実施するよう5月に要請があり、急遽、全学年の
アンケート調査のため「メンタルヘルス講演会」の時間を振り替えて実施した。その後、講演会

代替日の目途がつかなかったため、中止とした。メンタルヘルスへの学生の注意喚起については、カウンセラーの話など、年間の他行事で補うこととした。

- ・計画した行事以外にも、状況に応じて必要な対応や追加行事を実施した。
- ・要支援学生に対する支援に関しては、支援チームによる支援とそれ以外がある。

支援チームによる支援実績は以下の通り

支援チームによる支援学生数(本人・保護者から要望書提出がある学生)

1学年…6名(発達:4、気分1、その他1)

2学年…3名(発達:2、疾患:1)

3学年…1名(発達:1)

その他の支援・相談学生数:29名

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

進言内容

「保健管理センターの組織体制の整理・整備について、継続的に検討をお願いしたい。」

保健管理センターの組織体制の整理・整備については、従来から検討を重ねてきた。今後検討が必要な事項として、保健室と学生相談室の効果的な連携、支援組織の規則化及び保健管理センターとの関連、保健管理センター運営委員会の役割と学生支援員の位置づけ等が挙げられる。平成 29 年度も、これらの内容について検討を続けてきた。保健室と学生相談室の効果的な連携については、相談だけではなく身体不調で保健室を訪れる学生の状況を看護師(インターカー)が適切に判断し相談室に繋げる体制が定着し、経験も積み重ねられたことから対応の内容も向上している。支援組織の規則化については、保健管理センター運営委員会での数度の議論を経て、現在、三主事と保健管理センター長が加わる形での「特別支援室」を設置しそこに「支援チーム」を置く形で規則化する方向で議論が進展している。保健管理センターとの関連は、センター長はじめ構成員が加わる形で関与する形式を想定している。この方式であれば、保健管理センターと各部局は対等な関係で組織を構成することになり、学生支援体制は必然的に全学的になる。また、保健管理センター運営委員会は、運営に関することを審議するだけでなく、学生支援実務にも関与する方向で再定義することを検討している。これは、従来の「相談員」を「支援員」に変更したため、必要な検討になったからである。以上が今年度の進捗状況であるが、引き続き検討を重ね、組織体制の充実を図る予定である。

2.4 前年度からの改善(変更)項目(前述の改善の進言への対応以外)

- ・休学中の学生に対して、定期的に状況を把握するため、教務委員会に進言して、「休学者・長期欠席者の現状調査報告書」の書式を制定して、保健管理センターでも情報共有することにした。

2.5 来年度の年度計画

- (1)4月5日 入学式における保健管理センター長の保護者向け説明会
- (2)4月6日 始業式におけるカウンセラーの話・健康診断(全学年)
- (3)4月9~10日 新入生校内オリエンテーション(グループエンカウンター)(教務委員会主催)

- (5)4月17日 第2学年「対人関係スキルアップ講座」
- (6)4月 保健調書(2~5学年、専攻科)
- (7)4月 追加:内科診察
- (8)6月23日 保護者懇談会全体会:保健管理センター長説明
- (9)6月19・26日 歯科検診(1~5学年)
- (10)6月 全国高等教育障害学生支援協議会
- (11)7月 ハイパーQUの実施(1~3学年)
- (12)7月 学校薬剤師による環境検査(水質検査)
- (13)8月 平成30年度障害学生支援実務者育成研修会
- (14)9月 平成30年度心の問題と成長支援ワークショップ
- (15)9月 ハイパーQUの結果に関する担任とカウンセラーの意見交換
- (16)9月 高専機構本部依頼「こころと体の健康調査」実施
- (17)9月 第15回全国国立高等専門学校学生支援教職員研修
- (18)10月25日 第1学年「いのちと性に関する講演会」
- (19)10月31日 第2学年「薬物乱用防止講演会」(学生委員会主催)
- (20)11月 第14回東北地区学生相談連絡協議会
- (21)11月14日 第1学年「健康教室」(学生委員会共催)
- (22)11月30日 FD研修会
- (23)1月24日 第4学年「ハラスメント防止講演会」(ハラスメント防止委員会主催)
- (24)1月 学校薬剤師による環境検査(教室の二酸化炭素濃度、照度の検査)
- (25)3月 要支援学生の支援継続・引継ぎの対策
- (26)3月 次年度新入生要支援希望学生・保護者面談

平成 29 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：国際交流委員会

報告者（役職・氏名） 国際交流委員会 委員長・村上 明

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
委員長	村上 明	全体の取りまとめ
副委員長	岡本 健	海外研修、トビタテ応募支援
副委員長	千葉 圭	留学生受入れ、危機管理
教務主事補	三浦 弘樹	オンライン英会話
寮務主事補	佐藤 智治	寮での留学生指導
留学生指導	畠山 喜彦	学校での留学生指導
委員	柴田 勝久	フランス派遣学生の支援（フランス語授業）
総務課長	井手 克美	会務
学生課長	中山 美喜也	会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1)平成 28 年度に実施した内容を継続していくとともに、事業を実施していくために必要な組織や手続き、記録の管理方法および成果の公開方法について、引き続き整備していく。
- (2)後援会等や寄附金による海外研修参加学生支援の方法について整備していく。
- (3)オーストラリア研修に代わる新たな研修プログラムや県の国際交流組織と共同した海外研修の実施など、新たな海外研修の内容について検討していく。

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1)学生の海外派遣や留学生の受入れを行うための組織や手続き、記録の管理方法および成果の公開方法がほぼ構築され、それらに従って安全かつ確実に事業を実施できた。特に、学生の海外派遣（フランス派遣 3 名、ノルウェー派遣 1 名、ニュージーランド派遣 2 名）においては、小さなものも含めて事件・事故などのトラブルに学生が遭遇することもなく、計画が 9 割程度達成されたと考える。残り 1 割は、組織や手続き等の重複をなくし、より円滑に事業が実施できる体制とすることが課題に挙げられる。
- (2)後援会および一関高専学生チャレンジプロジェクト未来創造チャレンジによって整備された海外研修参加学生への支援基準に従い、フランス派遣学生 3 名、ノルウェー派遣学生 1 名、ニュージーランド派遣学生 2 名に対して支援を行った。ほぼ計画が達成されたと言える。
- (3)オーストラリア研修に代わる海外研修プログラムとして、シンガポール研修を計画し、平成 30 年度の実施に向けて参加学生の募集を開始した。また、岩手県および岩手県国際国流協会と

の協働で、トビタテ！留学 JAPAN 地域人材コースにより学生 1 名をノルウェーに一か月間派遣した。ほぼ計画が達成されたと考える。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

改善の進言①：学生の海外研修における準備手順や危機管理体制が整備されたことは評価できる。海外情勢の変化に応じた取り組みを継続的に行っていただきたい。

→今年度も引き続き海外研修における準備手順や危機管理体制の整備を行い、以下のように行動に移した。

- 今年度は、イギリス研修を実施する予定であったが、イギリスにおいてテロが発生し、情勢が不安定となったことを考慮し、危機管理室との連携により、中止を決定した。
- フランス、ノルウェー、ニュージーランドに派遣した学生に対しては、外務省海外安全虎の巻を使用した安全教育の実施や、たびレジ登録の指導などを行った。

改善の進言②：多くの活動を行って学生の活性化に繋がっていることは評価できる。

→今年度は、海外研修への参加を考えている学生に、フランスやタイからの短期留学生の報告会（プレゼンテーション）や一関国際交流協会のイベントへの積極的な参加を呼びかけた。その結果、多くの学生が参加し、参加した学生のうち何人かは、トビタテ！留学 JAPAN に応募したことから、学生が主体的に国際交流活動に取り組む雰囲気になりつつある。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

前年度までは、トビタテ！留学 JAPAN への学生の応募が一件もなかった。そこで、今年度は、学校内で説明会を開催し、積極的な応募を呼びかけた。その結果、岩手県の学生のみを対象とする地域人材コースに学生 1 名が応募したことに加え、全国高校生コースにも 3 名の学生が応募した。平成 30 年度に実施予定のシンガポール研修のプログラムを、トビタテ！留学 JAPAN への応募を視野に入れて開発した結果も、全国高校生コースへの応募に繋がったと考える。

2.5 来年度の年度計画

国際交流に関する諸行事および活動に対して、特に以下の項目に重点を置いて取り組む。

- 委員会内での役割分担の明確化と、それによる業務の効率化
- 平成 30 年度から始まるシンガポール研修とニュージーランド研修における安全かつ確実なプログラムの実施
- 海外に派遣する学生の安全確保
- トビタテ！留学 JAPAN への応募の更なる活性化

平成 29 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：男女共同参画推進委員会

報告者（役職・氏名） 男女共同参画推進委員会委員長・大嶋江利子

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
委員長	大嶋 江利子 (女性教員)	委員会業務の掌握
委員	中川 裕子 (女性教員)	委員会業務
〃	中嶋 剛 (男性教員)	〃
〃	片方 江 (男性教員)	〃
〃	加藤 卓也 (男性職員)	〃
〃	内藤 理恵 (女性職員)	〃
〃	後藤 勉 (事務部長)	〃
〃	井手 克美 (総務課長)	〃
総務課	白椋 幹雄 (人事給与係長)	会務

2 自己点検・自己評価

2.1 平成 29 年度計画

- (1) 男女共同参画推進委員会の業務の確認と整理
- (2) 北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議への参加
- (3) 文科省科学技術人材育成費補助金ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ【牽引型】への対応
- (4) 平成 28 年度女性教職員の就業環境等に関するアンケートへの対応
- (5) 一関高専 HP での男女共同参画のページの整備
- (6) ライフワークバランスに関する懇談会の実施
- (7) 第一ブロック男女共同参画推進担当者協議会への参加

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

(1)男女共同参画推進委員会の業務の確認と整理

今年度から委員会の構成員を見直したこととあわせて、男女共同参画推進委員会規則を基に業務の確認を行った。第2回から第6回にかけて審議を行い、男女共同参画推進委員会規則に基づき女子学生のキャリア支援は本委員会の業務ではないことを確認した。男女共同参画推進委員会規則に基づき女子学生キャリア支援を本委員会から切り離れたことは評価できる。

(2)北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議への参加

岩手大学、弘前大学、八戸高専、東北農研センター、株式会社ミクニと本校で構成される北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議に参加している。この会議の事業は主に(3)の文科省科学技術人材育成費補助金ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ【牽引型】で行われているため、内容については(3)で記述する。

(3)文科省科学技術人材育成費補助金ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ【牽引型】への対応

この事業における平成29年度末の本校の数値目標、女性教員の在職者数6名(助教以下3名、講師・准教授以上3名)、在職比率9.5%に対し、平成30年3月末の実績は在職者数5名(助教以下2名、講師・准教授以上3名)、在職比率8.4%である。しかしながら平成30年4月1日付で女性教員1名の採用と1名の助教から准教授への昇任が決定しており、4月1日の見込みでは在職者数6名(助教以下2名、講師・准教授以上4名)、在職比率10.0%となるため、数値目標の達成はほぼ順調である。

本校の女性教員と他の連携機関に所属する女性教員からなる共同研究支援として、共同研究経費として研究代表者として申請があった木村教員に41万円、共同研究者として申請があった小松田教員に13万円を研究経費として予算配分した。また女性研究者支援としての広域メンターシッププログラムに小松田教員がメンティとして参加しているほか、時間外勤務時の一時保育費用補助の試行に参加し、中川教員が補助を受けている。

本校主催の事業としては、女性教員の研究活動の広報およびリーダーシップ育成を目的としたサイエンスカフェを中川教員が中心となって実施し、7月22日(土)(一関図書館)には24名、11月4日(土)、5日(日)(本校、高専祭と同時開催)では両日で計9名の一般市民の参加があった。また11月20日(月)には、男女共同参画に関する研修会を豊橋技術科学大学学長補佐(男女共同参画担当)の中野裕美教授を講師に招き本校の第一講義室で開催した。本校の教職員と学生を中心に72名が参加した。

学生を対象としたキャリア形成支援のためのニーズ・意識アンケートを行った。

これらの事業は、女性教員の研究活動支援および本校の教職員と学生に対する意識啓発に大きく貢献したと考えられる。

(4)平成28年度女性教職員の就業環境等に関するアンケートへの対応

平成28年度に女性教職員を対象に行った就業環境等に関するアンケートの集計結果に対するQ&A集を作成し、サイボウズ上で公開した。またアンケートで寄せられた要望のうち早期の対応が必要と思われる内容については、実効的な措置を行った。

1. 男女共同参画に関する相談窓口を総務課人事給与係とすることを決定し、本校のHPにその旨と連絡先を掲載した。2. 子育てや介護に関する支援制度の情報が記された高専機構の育児・介護の支援ガイドブックを本校のHPからダウンロードできるようにした。3. 2号棟1階の女子更衣室の環境整備を行った。予算に制限があり対応できない要望もあったが、できる限りの対

応を行ったと評価する。

(5)一関高専 HP での男女共同参画のページの整備

本校の HP が新しく整備されたのにあわせて、男女共同参画への取り組み状況が HP 上で発信できるように整備した。迅速に整備できたことは評価できる。

(6)ライフワークバランスに関する懇談会の実施

3月27日(火)にライフワークバランスに関する意見収集のため参加を希望した教員6名による懇談会を行った。平成28年度に行ったアンケート調査は女性教職員のみを対象としたが、今回の懇談会には2名の男性教員の参加があり、男性からも意見を得ることができたのは評価できる。得られた意見への対応は来年度に行われることを期待する。

(7)第一ブロック男女共同参画推進担当者協議会への参加

9月8日(土)に函館高専で行われた第2回第一ブロック男女共同参画推進担当者協議会に出席した。第一ブロックの各高専の男女共同参画推進への取り組み状況の把握と、男女共同参画推進担当者と意見が交換できた。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

新体制で活動したのは今年度からなので、特になし

2.4 前年度からの改善(変更)項目(前述の改善の進言への対応以外)

委員会構成員の見直し

2.5 来年度の年度計画

- (1) 北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議への参加
- (2) 文科省科学技術人材育成費補助金ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ【牽引型】への対応(共同研究支援、サイエンスカフェの実施、研修会の実施、子育て中の女性教員への支援員配置)
- (3) 平成29年度ライフワークバランスに関する懇談会で収集した意見への対応
- (4) 第一ブロック男女共同参画推進担当者協議会への参加

平成 29 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：COC 実行委員会

報告者（役職・氏名） 委員長・明石尚之

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
委員長	明石 尚之	統括
副委員長	戸谷 一英	
委員	千葉 悦弥	
〃	大嶋 江利子	
〃	千葉 悦弥	
〃	貝原 巳樹雄	COC 推進部会 部会長
〃	平林 一隆	COC 推進部会 委員
〃	八戸 俊貴	COC 推進部会 委員
〃	梁川 甲午	COC 推進部会 委員
〃	井手 克美	
〃	中山 美喜也	
総務課	阿部 恵悦	会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 「一関高専 地域創造フォーラム」の開催
- (2) 「地域企業見学会」の実施
- (3) 「仕事と暮らしのイメージ湧くわくプロジェクト」の実施
- (4) 「地域企業情報ガイダンス」におけるブースプレゼン動画のライブラリ化
- (5) 「パテコンサミット in 一関」の開催

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

(1) 「一関高専 地域創造フォーラム」の開催

日時：平成 29 年 6 月 23 日（金） 10:30～12:00

会場：第一講義室

対象：第 4 学年学生

内容：

1. 平成 28 年度一関高専 COC+活動報告
2. パネルディスカッション テーマ “今後の事業展開と高専生へ期待すること”

<パネリスト>

- ・一関信用金庫 理事長 及川 弘人 氏
- ・株式会社 佐原 執行役員 製造本部長 田中 義之 氏

- ・株式会社 オヤマ 専務取締役 小山 雅也 氏
- ・ニッコーファインメック株式会社 代表取締役社長 小野寺 真澄 氏
- ・インテグラン株式会社 岩手工場 工場長代理 伊東 久 氏

「自己点検・評価」

階段教室で学生の考えを確認するために、挙手の代わりにスマートフォン・アプリの利用を試行した。地元就職について、リアルタイムで学生の意識調査を行うことができた。パネルディスカッションの前後を比較したかったが、時間の都合で実施後の意識調査を実施することができなかった。今後は、この手法を積極的に利用したい。

(2) 「地域企業見学会」の実施

期日：平成 29 年 10 月 4 日（水）電気情報工学科，物質化学工学科

平成 29 年 10 月 11 日（火）機械工学科，制御情報工学科

対象：第 2 学年

概要：一関市内の企業を見学した。一日を利用して午前 1 社，午後 2 社を見学した。
2 クラスずつ 2 週に分けて行った。

見学先：電気情報工学科：(株) 登米村田製作所，(株) 佐原，(株) 日ピス岩手

物質化学工学科：モリタ宮田工業 (株)，(株) 一関 LIXIL 製作所，北上製紙 (株)

機械工学科：(株) 登米村田製作所，SWS 東日本 (株)，北上製紙 (株)

制御情報工学科：モリタ宮田工業 (株)，三光化成 (株) 一関第二工場 (19 名)，

(株) 岩手日日新聞社 (19 名)，(株) 一関 LIXIL 製作所

「自己点検・評価」

本校の行事であるとともに、一関市の事業である「次世代ものづくり定住促進対策事業」としても実施しているもので、今年で 3 年目となる。昨年より、午前に宮城県北を 1 社，午後に一関市内を 2 社見学しているが、1 日 3 社で学生が疲れるようである。次年度の内容については、一関市と協議して進めたい。

(3) 仕事と暮らしのイメージ湧くわくプロジェクト

平成 28 年度に新設した「地域創造学」では、物質化学工学科が試行して若手技術者インタビューを実施した。平成 29 年度は、後期前半で物質化学工学科が、後期後半で電気情報工学科が若手技術者インタビューを実施した。最終回の 2/22(木)では、地域で活躍する OB, OG の事例紹介と平成 29 年度東北地方発明表彰受賞を受賞した佐原の千葉氏を招いた。

物質化学工学科：8 社 8 名の OB・OG

インテグラン(株)，(株)やまびこ盛岡事業所，大武・ルート工業(株)，一関ヒロセ電機(株)，
三光化成(株)，サンドビックツールリングサプライジャパン(株)，塩野義製薬(株)，関東化学(株)

電気情報工学科：10 社 10 名の OB・OG

アルプス電気(株)，(株)一関 LIXIL 製作所，イワフジ工業(株)，NEC プラットフォームズ(株)，
川嶋印刷(株)，(株)佐原，塩野義製薬(株)，ジオマテック(株)，(株)大昌電子岩手工場，
東北電力(株)一関営業所

最終回：

期日：平成 30 年 2 月 22 日（木） 12:50～14:20 （3 校時）

会場：第一講義室

内容：1. 各クラスの取組紹介。

2. 地域で活躍する OB, OG の事例紹介

(株)佐原 千葉弘樹氏(平成 29 年度東北地方発明表彰受賞)

なお、平成 28 年度と平成 29 年度に撮影した動画は、全学生が視聴できるよう、国立高専機構のブラックボードにアップロードした。

「自己点検・評価」

電気情報工学科は初めてのことで不慣れであったが、2 年目となる物質化学工学科の教員の協力によってスムーズに進めることができた。また、インタビュー動画のライブラリ化も実現することができた。

(4) 「地域企業情報ガイダンス」におけるブースプレゼン動画のライブラリ化

「地域企業情報ガイダンス」における企業ブースの説明をライブラリ化するため、説明風景をビデオ撮影した。

期日：平成 29 年 10 月 28 日（土）12:30～15:30

会場：第 1 体育館

「自己点検・評価」

撮影は 4 年生のアルバイトで行った。9 班に分けて 40 社の撮影を行ったが、必ずしも学生が聞きたい企業ブースの担当とならない場合もあった。今後は就職シーズンを控えた 4 年生ではなく、3 年生等に撮影を依頼したい。

(5) 「パテコンサミット in 一関」の開催

日 時 平成 30 年 3 月 29 日（木）13 時 30 分～16 時 30 分

場 所 専攻科・教育棟 講義室 1

メインテーマ：「採択される申請案とは？」

事例紹介：「専門の研究が特許支援対象となった事例の紹介」（群馬高専）

開催趣旨：パテコンテストほか、知財教育に熱心に取り組む先生方の相互研鑽、交流会により知財人材を地域で輩出すること。

主な参加者：国士舘大学副学長飯田昭夫氏、特許支援対象者を最も多数輩出している徳島大学教授出口祥啓氏ほか、主催者賞受賞者講演：北陸先端大学院大学、山形大学、岩手大学、沼津高専、群馬高専、仙台高専、鶴岡高専の教員等。

参加者数：23 名

「自己点検・評価」

事例紹介に留まらず、ファシリテーションも行った。参加者からは有意義な時間であったと感想を

いただいた。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

【提言】

- ・多くの活動を行い、学生の地域への定着に関する啓蒙に大いに貢献していると評価する。
- ・アンケート調査については継続してほしい。
- ・教務委員会および進路指導室とも連携して、学校全体としての活動にしてほしい。

【対応】

アンケート調査については適切な実施時期について考慮して、今後も継続していきたい。地域創造学及びインターンシップについては教務委員会と、地域企業情報ガイダンス及び情報交換会では進路指導室と連携をとりながら活動している。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

とくになし。

2.5 来年度の年度計画

- (1) 「一関高専 地域創造フォーラム」の開催
- (2) 「地域企業見学会」の実施
- (3) 「仕事と暮らしのイメージ湧くわくプロジェクト」の実施
- (4) 「地域企業情報ガイダンス」におけるブースプレゼン動画のライブラリ化
- (5) 「パテコンサミット in 一関」の開催

平成 29 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：COC 実行委員会 COC 推進部会

報告者（役職・氏名）教授・貝原巳樹雄

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
部会長	貝原 巳樹雄	統括
委員	平林 一隆	
委員	八戸 俊貴	
委員	梁川 甲午	

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 「一関高専 地域創造フォーラム」の開催
- (2) 「地域企業見学会」の実施
- (3) 「仕事と暮らしのイメージ湧くわくプロジェクト」の実施
- (4) 「地域企業情報ガイダンス」におけるブースプレゼン動画のライブラリ化
- (5) 「パテコンサミット in 一関」の開催

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

年度計画の実施状況は COC 実行委員会の報告書と同じであるため、省略する。

COC 実行委員会の事業実施に際し、実際の運営の大半に携わったのが、COC 推進部会のメンバーであり、精力的に活動した。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

【提言】

アンケート結果のWeb公開について、アンケート対象者に事前に公開の同意を得た上で、適切な校内手続きを経る必要があるが、平成28年度に行ったWeb公開において手続きが不十分なケースがあった。次年度以降適切な手続きを実施して頂きたい。

【対応】

今後、アンケート結果をWeb上に公開する場合は、学内で定めた手続きに則って行うこととする。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

とくになし。

2.5 来年度の年度計画

- (1) 「一関高専 地域創造フォーラム」の開催
- (2) 「地域企業見学会」の実施
- (3) 「仕事と暮らしのイメージ湧くわくプロジェクト」の実施
- (4) 「地域企業情報ガイダンス」におけるブースプレゼン動画のライブラリ化
- (5) 「パテコンサミット in 一関」の開催

平成29年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：いじめ防止委員会

報告者（役職・氏名） いじめ防止委員長・白井仁人

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
委員長：副校長・学生主事（第4条第1号）	白井仁人	委員長 企画調整
副委員長：保健管理センター長（第4条第2号）	平林一隆	副委員長 企画調整 アンケート実施
委員：学生主事補（第4条第3号）	岡本 健	委員会メンバー
委員：学生主事補（第4条第3号）	原 圭祐	委員会メンバー
委員：学生主事補（第4条第3号）	藤田実樹	委員会メンバー
委員：学生課長（第3条第4号）	中山美喜也	委員会メンバー
委員：看護師（第4条第5号）	平野悦子	委員会メンバー

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) いじめ防止委員会の実施
- (2) いじめアンケートの実施
- (3) いじめ案件への対応

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) いじめ防止委員会の実施
メール審議が多くなったが、年4回実施することができた。また、そこで議論してきた「いじめ防止基本方針」の改訂を実現することができた。
- (2) いじめアンケートの実施
今年度初めて、いじめアンケートを実施することができた。これは、保健調査などの4種類のアンケート調査とは別に行ったものである。
- (3) いじめ案件への対応
保健管理センターが中心となって、いじめ案件に対応した。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

改善の進言：

- ① 自己点検結果に、「いじめに対する体制をさらに充実させていきたい」とありますが、より具体的な体制・対応策の検討をお願いします。
- ② 学生の悩み相談受付を統一し、対処する項目ごとの対応フローの策定をお願いしたい。

- ③ 委員会活動が具体的に目で見えるようになることが求められる。

進言への対応：

- ① より具体的な体制・対応策を検討した。具体的には「いじめアンケート調査」を新しく実施し、早期発見・早期対応に努めた。また、担任等が孤立して対応しないように、保健管理センターと学生主事が中心となっていじめ防止委員会でチームを組んで対応した。
- ② 学生間のいじめと教員からのハラスメントについて基本的に担任、及び、保健管理センターが窓口となっている。ただ、いじめはいじめ防止委員会が対応しているが、ハラスメントについては対応していない。ハラスメントについては、ハラスメント防止対策委員会が対応すべきと思われるが、具体的な方策については校長に進言し、検討して頂いているところである。
- ③ 委員会活動が具体的に目で見えるよう、いじめアンケート調査を実施している。具体的案件に関する活動（事情聴取等）は、守秘義務の観点から目で見えるようにすべきでないとする。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

「いじめ防止基本方針」の改訂を行うことができた。

2.5 来年度の年度計画

- (1) いじめ防止委員会の実施（年数回）
- (2) いじめアンケートの実施（7月頃）
- (3) いじめ案件への対応（随時、発覚時）

平成29年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：情報セキュリティ人材育成事業推進委員会

報告者（役職・氏名） 委員長・千田 栄幸

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	所属・職名	備考
	井上 翔	機械・知能系 ※機械工学科	第3条第一号 (H29.4.1-H30.3.31)
委員長	千田 栄幸	情報・ソフトウェア系 ※電気情報工学科	第3条第一号 (H29.4.1-H30.3.31)
	佐藤 智治	情報・ソフトウェア系 ※制御情報工学科	第3条第一号 (H29.10.1-H30.3.31)
	福村 卓也	化学・バイオ系 ※物質化学工学科	第3条第一号 (H29.4.1-H30.3.31)
	二本柳 譲治	総合科学 人文社会領域	第3条第一号 (H29.4.1-H30.3.31)
	小保方 幸次	電子計算機室長 情報セキュリティ推進委員長	第3条第一号 (H29.4.1-H30.9.30) 第3条第二号 (H29.10.1-H30.3.31)
	管 隆寿	電子計算機室長 情報セキュリティ推進委員長	第3条第二号 (H29.4.1-H30.9.30)
	片方 江	教務委員会 ICT活用教育部会長	第3条第三号 (H29.4.1-H30.3.31)
	横田 礼	技術室 電気・情報班	第3条第五号 (H29.4.1-H30.3.31)
	井手 克美	総務課長	第3条第四号 (H29.4.1-H30.3.31)
事務担当	千葉 正義	総務課課長補佐(企画担当)	推進委員会規則 第5条

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

本事業初年度の取り組み内容を踏まえ、以下の9項目について、実践校と連携して検討・実施する計画を立てた。

- (1) 「情報モラル教材」の効果的な展開及びブラッシュアップ
- (2) 第一ブロック教職員対象情報セキュリティ研修会の実施
- (3) 日立製作所による出前授業の遠隔実施
- (4) ボードゲーム型（対サイバー攻撃）KIPS 演習の遠隔実施
- (5) 情報処理技術者試験・情報処理安全確保支援士試験対策 eラーニング教材の提供
- (6) IoTセキュリティに係る演習の実施
- (7) 地域連携活動（小中学生、一般市民向け、地域企業向けの検討）
- (8) 都道府県警察、大学等、地方自治体等他機関との連携活動
- (9) 第一ブロックとしての独自の取り組みの検討

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) 「情報モラル教材」の効果的な展開及びブラッシュアップ

「情報モラル教材」について、eラーニング教材の改修(20問/60問)、ディスカッション教材のスライド追加(3テーマ/5テーマ)、ディスカッション教材の追加(5テーマ)を実施した。

また、高度人材向け情報モラル教材として「情報セキュリティ管理者向け教材」を開発した。

第一ブロックの展開については、5高専を訪問し「情報モラル教材」を含む、本事業開発教材の紹介を行った。

- 9/12 苫小牧, 12/10 仙台(広瀬), 2/28 八戸, 3/12 旭川, 3/19 秋田, ※11/16 本校)

- (2) 第一ブロック教職員対象情報セキュリティ研修会の実施

情報セキュリティ研修会という形式での実施はなかったが、「対サイバー攻撃演習指導者講習会および管理者講習会(11/14)」および「情報セキュリティマネジメント試験対策講習会(3/5-3/6)」を実施し、第一ブロックの各高専より教職員が参加した。

- (3) 日立製作所による出前授業の遠隔実施

下記のとおり、学生向け及び教職員向けの出前授業を実施した。

- 学生向け（全6回）

- ・ 情報セキュリティリスクの基礎(9/25)
- ・ 暗号理論と応用(10/16)
- ・ 情報セキュリティと法制度(11/13)
- ・ ハードウェアセキュリティ(12/11)
- ・ ネットワークセキュリティ(1/29)
- ・ 情報セキュリティマネジメント(2/22)

- 教員向け（全6回）

- ・ セキュリティ関連技術の全体像とは～セキュリティ技術の俯瞰～(9/25)
- ・ セキュリティ関連技術の全体像とは(2)～個別知識・技術の整理～(10/16)
- ・ セキュリティ考古学に学ぶ～背景から理解する情報セキュリティ～(11/13)
- ・ セキュリティカリキュラムにおける到達度の考え方～本質理解と実践力を身につけ

た人材を輩出するために～(12/11)

- ・ セキュリティ最新動向～今、世の中で何が起きているか～(1/29)
- ・ 高専における情報セキュリティ教育および輩出人材について
ーパネルディスカッションー(2/22)

(4) ボードゲーム型（対サイバー攻撃）KIPS 演習の遠隔実施

11月14日に本校において「対サイバー攻撃演習指導者講習会および管理者講習会」を実施し、各高専においてKIPS演習を実施出来る体制が整ったため、遠隔演習は実施する必要がなかった。

- 第一ブロックおよび各拠点校より、教職員 22 名参加

(5) 情報処理技術者試験・情報処理安全確保支援士試験対策 e ラーニング教材の提供

平成 29 年度秋季および平成 30 年度春季試験対策として、情報セキュリティマネジメント試験(SG)および情報処理安全確保支援士(SC)に係る e ラーニング教材を提供した。また、3月5日～6日の2日間に渡り、「情報セキュリティマネジメント試験対策講習会」を実施した。

- 教材提供：SG 56 ライセンス、SC 71 ライセンス
- 試験対策講習会：第一ブロックおよび各拠点校より、教職員 20 名参加

(6) IoT セキュリティに係る演習の実施

実践校の苫小牧高専が中心となって IoT カーの教材開発を行ったが、本校において教育実践するまでに至らなかった。なお、第三ブロックで冬季休業中に実施した高度人材育成冬休み合宿講座の内容「ネットワークセキュリティ」について、1月15日の放課後に演習を実施した。

- 制御情報工学科の学生を中心に、8 名参加

(7) 地域連携活動（小中学生、一般市民向け、地域企業向けの検討

小中学生向けのプログラミング教室において、本事業開発教材を利用した簡単な情報モラル教育を実施した。また、情報セキュリティマネジメント試験対策講習会(3/5)については、県南技術研究センターを通じて地域企業に呼びかけ参加者があった。

- プログラミング教室：全 3 回（6/18, 7/9, 8/8）
- 試験対策講習会：地域企業より 2 名、本校 OB 1 名

(8) 都道府県警察、大学等、地方自治体等他機関との連携活動

厚生補導という観点で数年前より実施している「サイバー犯罪防止教室」(学生委員会主催)については、岩手県警察サイバー犯罪対策室より講師を招き今年度も実施した。また、警察庁連携については、2月に東北管区警察局長の担当者と来年度の出前授業の実施に係る打ち合わせを実施した。

大学連携については、1月に東北大学がとりまとめ校となっている enPiT Basic SecCap「クラウドセキュリティ演習」の視察を行った。

- サイバー犯罪防止教室：7/12 開催、対象：第 2 学年

(9) 第一ブロックとしての独自の取り組みの検討

実践校の旭川高専が中心となって情報セキュリティ実習教材の評価指標の開発を行ない、「スキル評価シート[試案]」を作成した。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

※平成 28 年度年間活動報告書に係る指摘事項

『平成 28 年度は体制整備、施設整備に重点が置かれていたので、平成 29 年度からは具体的な意見交換が学内で行われるとよい。』

☛学内の主要メンバーについては、オンライン/オフラインを含め緊密に本事業推進に係る意見交換を行った。また、各拠点校及び実践校についても、定期的な会議(Skype for Business)において意見交換・打ち合わせが緊密に実施された。一方で、学内委員会メンバーについては、毎月の会議報告に合わせて状況報告や意見照会を行っていたものの、意見交換が活発に行われたとは言い難い。来年度は、開発教材利用の徹底が求められるため教務委員会とも連携して、学内展開を図りたい。

2.4 前年度からの改善(変更)項目(前述の改善の進言への対応以外)

主要メンバーの情報交換用に Office365 のサービス(Teams)を活用し、緊密な意見交換がなされた。

2.5 来年度の年度計画

下記のとおり今年度の年度計画 9 項目について、深化・発展させる。

(1) 「情報モラル教材」の効果的な展開及びブラッシュアップ

来年度「情報セキュリティ管理者向け教材」が新たに加わる。

(2) 第一ブロック学生・教職員対象情報セキュリティ講座の実施

演習教材を含めた教育実践

(3) 日立製作所との連携活動の実践

演習を伴った授業の出前授業

(4) ボードゲーム型(対サイバー攻撃) KIPS 演習

情報系以外の学科・系での実践

(5) 情報セキュリティマネジメント試験・情報処理安全確保支援士試験

対策 e ラーニング教材の提供

セキュリティ教育の効果を図る指標の一つとしての資格取得支援

(6) IoT セキュリティに係る演習の実施

IoT カー、信号機のセキュリティに係る教材の展開

(7) 地域連携活動(小中学生、一般市民向け、地域企業向け)の実践

継続的な活動を検討

(8) 都道府県警察、大学等、地方自治体等他機関との連携活動

enPit に係る東北大学との協力、警察庁による出前授業

(9) 第一ブロックとしての独自の取り組みの検討

スキル評価シート[試案]のブラッシュアップと今後の展開について

平成 29 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：未来創造工学科運営会議

報告者（役職・氏名） 未来創造工学科長・中山 淳

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
議長	中山 淳 (未来創造工学科長)	会議業務の掌理
構成員	若嶋 振一郎 (機械・知能系長)	
〃	藤田 美樹 (電気・電子系長)	
〃	千田 栄幸 (情報・ソフトウェア系長)	
〃	照井 教文 (化学・バイオ系長)	
〃	津田 大樹 (総合科学人文社会領域)	
〃	片方 江 (総合科学自然科学領域長)	
	総務課	事務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

(1) 学科等再編推進経費の使途検討

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

(1) 学科等再編推進経費の使途検討

特命教員の人件費を除いた学科等再編推進経費の使途について検討を行った。各系への予算配分により、各系の実験実習設備等の充実が図られた。また、第一講義室、視聴覚室等の共通的な教室の設備等の更新を行った。学科等再編推進経費が有効に活用できたものと評価する。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

平成 29 年度設置の会議であることから、該当なし。また、前身である未来創造工学科設置準備委員会の平成 28 年度年間活動報告書についても、改善の進言はなかった。

2.4 前年度からの改善(変更)項目(前述の改善の進言への対応以外)

平成 29 年度設置の会議であることから、該当なし。

2.5 来年度の年度計画

(1) 3つのポリシー改定案の作成

(2) 専攻科改組へ向けた検討

平成29年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：一般教科

報告者（役職・氏名） 一般教科 教科長・千葉 圭

1. 構成員および主な担当業務（※印は、教科長）

構成員

一般教科人文社会系

職名	氏名	担当科目（□印は、専攻科授業科目）
特任教授	菅野 俊郎	保健体育Ⅰ、体育
教授	畠山 喜彦	英語演習Ⅰ、英語演習Ⅱ、英語表現Ⅱ、 英語講読・作文
教授	渡辺 仁史	国語Ⅱ、日本語表現法、文学
※教授	千葉 圭	総合英語ⅠＡＢ、ⅢＡＢ、英語表現Ⅱ
教授	松浦 千春	歴史Ⅰ・歴史学
准教授	津田 大樹	国語Ⅰ、国語Ⅲ
准教授	二本柳 譲治	総合英語ⅠＡＢ、総合英語ⅢＡＢ、英語表現Ⅱ
准教授	平林 一隆	地理、経済学、ドイツ語
准教授	高野 淳司	保健体育Ⅱ・Ⅲ
講師	千田 芳樹	倫理、哲学
講師	下川 理英	

一般教科自然科学系

職名	氏名	担当科目（□印は、専攻科授業科目）
教授	松尾 幸二	基礎数学Ⅱ、微分積分ⅠＡ、微分積分ⅠＢ、 ベクトル解析学
教授	白井 仁人	基礎物理、応用物理Ⅰ
※教授	高橋 知邦	基礎数学Ⅱ、微分積分ⅠＡ・ⅠＢ、線形代数Ⅱ、 応用線形代数学
准教授	谷川 享行	物理ⅠＡ、物理ⅠＢ
准教授	片方 江	基礎数学ⅠＡ・ⅠＢ、微分積分Ⅱ、解析学Ⅱ、 応用解析学
助教	小松田 沙也加	化学Ⅰ、化学Ⅱ、分析化学実験、基礎化学実験、ものづくり実験実習 Ｃ、卒業研究
助教	佐藤 一樹	基礎数学ⅠＡ・ⅠＢ、微分積分Ⅱ、解析学Ⅱ、線形代数Ⅱ
助教	山野 内敬	物理ⅡＡ・ⅡＢ

担当業務

一般教科長（人文系）千葉 圭(1/1)、（自然系）高橋 知邦(1/1)

副校長・学生主事 白井 仁人(1/2) / 副校長・寮務主事 松尾 幸二(2/2)

教務主事補 片方 江(2/2) / 学生委員 渡辺 仁史(1/1) / 寮務主事補 千田 芳樹 (2/2)

領域長（人文系）津田 大樹(1/1)、（自然系）片方 江(1/1)

メディアセンター・図書館長 二本柳 譲治(1/2) / 保健管理センター長 平林 一隆(1/2)

【科目主任】 (国語) 津田 大樹 (社会) 平林 一隆 (数学) 佐藤 一樹
(理科) 谷川 享行 (体育) 高野 淳司 (英語) 二本柳譲治

【正担任 8名】

1-1 (松浦 千春) 1-2 (佐藤 一樹) 1-3 (津田 大樹) 1-4 (菅野 俊郎)

2 M (谷川 享行) 2 E (高野 淳司) 2 S (小松田沙也加) 2 C ()
 3 M (二本柳譲治) 3 E () 3 S () 3 C ()

【副担任6名】

1-1 (高橋 知邦) 1-2 (畠山 善彦) 1-3 (千葉 圭) 1-4 (平林 一隆)
 2 M (渡辺 仁史) 2 E (千田 芳樹) 2 S () 2 C ()
 3 M () 3 E () 3 S () 3 C ()

【各種委員会委員】

運営委員会(人文自然) (千葉 圭) (高橋 知邦)
 入学試験委員会 (千葉 圭) (高橋 知邦)
 安全衛生委員会 (千葉 圭) (高橋 知邦)
 情報セキュリティ管理委員会 (千葉 圭) (高橋 知邦)
 情報公開委員会 (千葉 圭) (高橋 知邦)
 組換えDNA実験安全委員会 (千葉 圭) (高橋 知邦)

〔 H28 〕 → 〔 H29 〕

保健管理センター相談員 (平林 一隆) → (平林 一隆)
 図書館専門部会 (津田 大樹) → (二本柳譲治)
 学習教育評価点検委員(一般内) (千葉 圭・小松田沙也加) → (千葉 圭・谷川 享行)
 電子計算機室専門部会 (二本柳譲治) → (佐藤 一樹)
 留学生指導教員・国際交流副室長 (下川 理英) → (畠山 善彦)
 施設整備委員会(体育) (高野 淳司) → (高野 淳司)
 技術系部会(旧ロボコン部会) (菅野 俊郎) → (畠山 善彦)
 IES自己評価 (千葉 圭・佐藤 一樹) → (千葉 圭・高橋 知邦)
 環境事務局評価 (渡辺 仁史) → (渡辺 仁史)
 テクノセンター運営委員会 (渡辺 仁史) → (渡辺 仁史)
 レクリエーション委員 (佐藤 一樹) → (小松田沙也加)
 公開講座(資料1-2参照) (数学3人) → (数学3人)

2. 自己点検・自己評価

2. 1 年度計画

- ・連携授業
- ・一日体験入学
- ・スポーツテスト
- ・低学力の学生の支援

2. 2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- ・**連携授業**：諸般の事情から実施が難しくなってきたところもあったのだが、担当者の努力により29年度も全科目で実施をすることができた。アンケート結果によれば学生からの評価もよく、次年度も何とか実施する方向でいきたい。
- ・**一日体験入学**：29年度も展示を実施した。今年度から「総合科学」として展示を行った。輪番制で説明のために教員を配置し、そのおかげもあってか、例年より来場者が多かった。さらに工夫を加え、総合科学の存在、重要性を認識していただいで増募につなげたい。

・ **スポーツテスト**：29 年度も実施した。学生の健康維持増進のために、今後も実施していきたい。

・ **低学力の学生の支援**：数学科・英語科による定期的な補習、理科のTAのとりまとめ等、学力の低い学生のための支援を 29 年度も実施した。補習等を受けてから定期試験での成績が上昇した学生が少なからず見られ、効果があったと判断される。また、補習の対象者のほぼ全員が毎回出席し、真剣に取り組む姿勢が見られた。学習意欲の増進にもつながったと思われる。将来的には物理や化学でも補習を実施する方向で検討しており、さらなる支援体制を築いていきたい。

2. 3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

会議の回数を増やすようにとの進言があった。一般教科は人数が多いこと、科目間での事情が異なることなどから、全員が集まっての会議の開催は難しいところがある。実際、昨年度も招集する形での会議は 2 回のみである。その分、メールによる会議を何度か実施した（前掲）。これにより、進言に対する改善はなされたと言える。

2. 4 前年度からの改善(変更)項目(前述の改善の進言への対応以外)

29 年度より学科改組が始まり、1 年次修了の段階で、系の配属という新しい仕組みにも対応しなければならず、4 回の調査の推移にばらつきがみられた。来年度は、従来からあった「学科長」というポストを領域長が兼任することになりこともあり、学科全体の会議や、科目主任による会議、また、各科目内での会議等を多く開催しなければならなくなるであろう。教員間で常に密に連絡を取り合い、混乱を生じさせることなく、新しい体制に入っていけるよう努力していきたい。

2. 5 来年度の計画

- ・ 連携授業：11 月（環境に関する連携授業を実施し、学生の意識を高める。）
- ・ 公開講座：日程未定（数学科による中学生のための入試対策）
- ・ 一日体験入学・高専祭：（総合科学展示を行い、増募につなげたい。）
- ・ スポーツテスト：4-5 月（学生の健康維持増進に継続的に貢献する。）
- ・ 安全巡視や物品管理：（教育研究環境の継続的な安全確認、責任ある物品管理）
- ・ 授業改善：（各科目内で指導方法や評価方法の改善・工夫を検討する。）
- ・ 次年度本校 4 年次へ編入学する予定の生徒への数学の事前指導：
（本校へ編入学してからスムーズに授業に入っていけるよう、指導する。）

平成 29 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：機械工学科

報告者（役職・氏名）機械工学科長・中嶋 剛

1 構成員および主な担当業務(一覧)

補佐	教務委員	藤原 康宣			
	学生主事補	原 圭祐			
	寮務主事補	八戸 俊貴			
	総務担当補佐	—			
	生産工学副専攻長	若嶋 振一郎			
	副地域共同テクノセンター長	若嶋 振一郎			
学科長	中嶋 剛				
担任	5M	正担	土屋 高志	副担	中嶋 剛
	4M	正担	井上 翔	副担	八戸 俊貴
	3M	正担	—	副担	村上 明
	2M	正担	—	副担	—
	1	正担	—	副担	—
委員会 部会	JABEE 対応		中嶋剛	評価対応部会	—
	セキュリティ推進委員会		井上 翔	電子計算機専門部会	井上 翔
	環境事務局		井上 翔	自己評価委員	八戸俊貴, 伊藤一也
	技術系コンテスト支援部会		土屋高志	図書館専門部会	中嶋 剛
	保健管理センター運営委員会		原 圭祐	国際交流委員会 委員長	村上 明
	進路指導室		4M 担任		
室	広報室		八戸 俊貴		
	機械工学実験まとめ		5年	八戸俊貴	4年
学科	就活指導担当		中嶋 剛		
	レクレーション委員		原 圭祐		
	工場見学		4M 正担任+副担任		

卒業研究プログラム作成	若嶋振一郎
実習工場委員	原 圭祐, 井上 翔
長岡技科大交流	(適宜)
学科パンフレット・HP	藤原 康宣, 若嶋 振一郎
機械学会東北支部連絡員	若嶋 振一郎

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

(1) 学科会議を概ね月 1 回程度行う。

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

年度計画達成度は 100%。前年度は学科会議 7 回/年であったが、今年度は学科会議を増やし (12 回/年)、学科メンバー間の情報共有および情報交換の機会を確保した。

例えば学科からの専攻科推薦学生の選抜方法といった丁寧な議論の必要な事項についても、学科会議を重ねることで意見の集約がスムーズにいくようになった。また、教務関係や専攻科関係の議題についてもある程度時間をかけて議論を進められるようになった。

学内行事の関係や、出張等で学科会議出席率は 100%とは言えない。重要事項の決定に際しては、学科会議欠席予定メンバーに事前に意見聴取をしておくといった対応が必要になるかもしれない。

委員会活動全体としては、一日体験入学や高専祭で例年通り機械工学科 (機械・知能系) の PR ができ、機械・知能系への配属を第一希望とした 1 年生が 56 名とクラス定員を大幅に超過する良好な結果を得た。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

平成 28 年度学科会議 7 回であったのを、平成 29 年度は 12 回へ大幅に増加させた。

2.4 来年度の年度計画

- (1) 引き続き、一日体験入学や高専祭で学科 (系) PR をする。
- (2) モデルコアカリキュラム対応のため、個々の授業内容を微調整する。
- (3) ホームページにおいてもっと系のアピールを図る。

平成 29 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：電気情報工学科

報告者（役職・氏名）電気情報工学科長・郷 富夫

1 構成員および主な担当業務(一覧)

運営委員会構成員	副校長（教務担当）・教務主事		明石 尚之		
	校長補佐（総務担当）		千葉 悦弥		
	電気情報工学科長		郷 富夫		
	電子計算機室長		管隆寿(～H29. 9. 30)		
	電気・電子系長		藤田 実樹		
	情報・ソフトウェア系長		千田 栄幸		
その他の役職者	教務主事補		小野 孝文		
	学生主事補		藤田 実樹		
	副地域共同テクノセンター長		秋田 敏宏		
	生産工学副専攻長		小野 孝文		
	評価担当補佐		千田 栄幸		
	副メディアセンター長		管隆寿(～H29. 9. 30)		
担任	5E	正担	千田 栄幸	副担	郷 富夫
	4E	正担	谷林 慧	副担	小野 孝文
	3E	正担	秋田 敏宏	副担	豊田 計時
	2E	正担	—	副担	管隆寿(～H29. 9. 30) 千葉悦弥(H29. 10. 1～)
委員会部会	寮務委員		谷林 慧	図書館専門部会	小野 孝文
	電子計算機室		千田 栄幸	電子計算機専門部会	千田 栄幸
	ICT 活用教育部会		千田 栄幸 管 隆寿 (～H29. 9. 30)	技術系コンテスト 支援部会	千葉 悦弥
	テクノセンター運営委員会		藤田 実樹	環境事務局	明石 尚之
	保健管理センター運営委員会		秋田 敏宏	セキュリティ推進 委員会	千田 栄幸
室	進路指導室		4E 担任	広報室	秋田 敏宏
学外委員	高専機構 情報戦略推進本部 情報セキュリティ部門（部門員）， 高専機構 情報セキュリティ人材育成事業（第1ブロック責任者）， 高専連合会 高専プログラミングコンテスト委員会（総務担当チーフ）				千田 栄幸
	高専機構留学生等国際交流専門部会，ベトナム JICA				秋田 敏宏
	高専機構原子力人材育成事業				小野 孝文

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 学科会議を概ね月 1 回程度行う。
- (2) 一日体験入学および高専祭にて系の P R を行う。

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) 学科会議は、役職者が多いために日程調整が困難で、4 回しか実施することができなかった。
- (2) 一日体験入学・高専祭にて電気・電子系、情報・ソフトウェア系の P R をすることができた。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

点検評価委員会からの進言はなかった。

2.4 来年度の年度計画

- (1) 学科会議を概ね月 1 回程度行う。
- (2) 一日体験入学および高専祭で系の P R を行う。

平成 29 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：制御情報工学科

報告者（役職・氏名） 制御情報工学科長・柴田勝久

1 構成員および主な担当業務(一覧)

氏名	担当業務
小野 宣明	5年正担任, 保健管理センター運営委員会委員
柴田 勝久	学科長, 5年副担任, 環境管理責任者, 国際交流委員会委員
中山 淳	専攻科長, 未来創造工学科長
河原田 至	3年正担任, 図書館専門部会委員
佐々木 晋五	学生委員会委員, 3年副担任, 技術系コンテスト支援部会委員 (11月23日ご逝去)
小保方 幸次	専攻長, 電算機室室長 (後期), テクノセンター運営委員
佐藤 陽悦	4年正担任
三浦 弘樹	教務主事補
小林 健一	3年副担任 (12月以降), 電算機室室員 (後期)
佐藤 智治	寮務主事補, 4年副担任, 情報セキュリティ人材育成事業推進委員会委員 (後期)
水津 俊介	(2月13日赴任)

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 学科学生に対し授業を実施する。
- (2) 進路指導をする。

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) 授業について。佐々木教員の不幸な事故があったが、学科および非常勤の教員の協力が得られ、年間の授業を終えることができた。
- (2) 進路指導について。

工場見学旅行 (4年生) 引率教員 中山, 佐藤陽悦

11/8 (水) 羽田空港ターミナル, ANA 機体工場

11/9 (木) サントリービール武蔵野工場, 三菱電機ビルテクノサービス

11/10 (金) 東急建設相模原研究所

進路状況

卒業生 36名中, 進学 17名 (専門学校 1名を含む), 就職 18名であった。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

該当しない。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

特記事項はない。

2.5 来年度の年度計画

会議の回数十分とは言えない。計画的に行う。

平成 29 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：物質化学工学科

報告者（役職・氏名）物質化学工学科長・二階堂 満

1 構成員および主な担当業務

運営委員会構成員	副校長（研究・地域連携担当） 地域共同テクノセンター長		戸谷 一英		
	校長補佐（評価担当）		福村 卓也		
	物質化学工学科長		二階堂 満		
	化学・バイオ系長		照井 教文		
	男女共同参画推進員会長		大嶋江利子		
	技術室長		二階堂 満		
その他の 役職者	教務主事補		照井 教文		
	学生主事補		岡本 健		
	副地域共同テクノセンター長		滝渡 幸治		
	物質化学工学専攻長		大嶋江利子		
	総務担当補佐		大嶋江利子		
	国際交流副委員長		岡本 健		
担任	5C	正担	中川 祐子	副担	二階堂 満
	4C	正担	渡邊 崇	副担	貝原巳樹雄
	3C	正担	木村 寛恵	副担	福村 卓也
	2C	正担	佐藤 和久	副担	滝渡 幸治
委員会 部会	寮務委員		貝原巳樹雄	図書館専門部会	貝原巳樹雄
	知的財産部会		戸谷一英 滝渡 幸治 貝原巳樹雄	電子計算機専門部会	佐藤 和久
	COC 実行委員		貝原巳樹雄 梁川 甲午	技術系コンテスト支援部会	滝渡 幸治
	テクノセンター運営委員		福村 卓也	環境事務局	二階堂 満
	保健管理センター運営委員		二階堂 満	セキュリティ推進委員	佐藤 和久
室	進路指導室		4C 担任	広報室	中川裕子、 貝原巳樹雄

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 学科系会議を概ね月 1 回程度実施する。
- (2) 学科系の P R 活動を多方面で実施する。

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

物質化学工学科（化学バイオ系）の教育・研究・学生指導等が円滑に行えるように、定期的に学科・系会議を開催し、教員間で密な連絡を取り合っている。5 年生に対しての就職・進学への支援、各学年での進路指導も学科全体で行ってきた。外部への地域貢献活動も積極的に行い、岩手化学工学懇話会等の活動を通じて教育研究面での地域連携活動も学科として支援してきた。特に、化学工学一関セミナー（岩手化学工学懇話会と一関高専物質化学工学科が主催）は今年で第 27 回目を迎えた。

教育面においては、成績不振者やメンタル的に問題のある学生も多くいるが、本人の状況を教員間で情報を共有するように務めた。本科学生のみならず専攻科学生の一部学生に対しては、手厚い支援が必要になる場合もあった。その際には、担任・副担任を中心に学生・保護者への対応を丁寧に行ってきた。メンタルヘルス面での学生支援については、担任・副担任のみならず保健管理センターとの密な連携が必要と考える。また、メンタルヘルスや支援学生に関しては、各教員がセミナー等にも参加し、さらに勉強していく必要を感じている。

2.3 前年度からの改善（変更）項目

・学科系会議において、学生の動向について常に詳細に意見交換を実施し、各クラスの状況（学生の成績や学校生活）について学科内の教員で情報共有するように努めた。

2.4 来年度の年度計画

- (1) 学科系会議を概ね月 1 回程度実施する。
- (2) 学科系の P R 活動を多方面で実施する。

ここ最近では、化学・バイオ系（化学・生物系）への志願者が減少傾向にあると感じる。中学生や地域への P R 活動の改善と強化が望まれ、次年度の最重要課題と考えた。

化学・バイオ系に改組となり授業カリキュラムなどが変更になっている。また、専門科目の授業時間数も減少している。学生の学力低下が懸念されているので、今後は学力向上に向けて更なる授業改善等が必要と感じている。